

インドネシア共和国
前期中等理科教員研修強化
運営指導調査報告書

平成 20 年 4 月
(2008 年)

独立行政法人 国際協力機構
人間開発部

人 間
J R
09-005

序 文

インドネシア共和国は、国家開発の重要な柱である人材育成を図るため、教育の機会拡大、教育の質向上、教育行政の改善の3点を重視している。中でも教育の質向上を目的に、2005年新たに国民教育省内に「教職員資質改善総局」を立ち上げた。また、2001年に地方分権化を一斉導入したものの、いまだに地方での教育行政システムが安定しておらず、対応策を急いでいる。これら教育政策の改革に伴い、同国政府は2004年、教員研修の改善を目的とする技術協力を要請してきた。

これを受けて独立行政法人国際協力機構は、インドネシア共和国側と協議を重ねた結果、討議議事録(R/D)の署名を取り交わし、2006年5月から3年間にわたる技術協力プロジェクト「前期中等理科教員研修強化」を開始した。

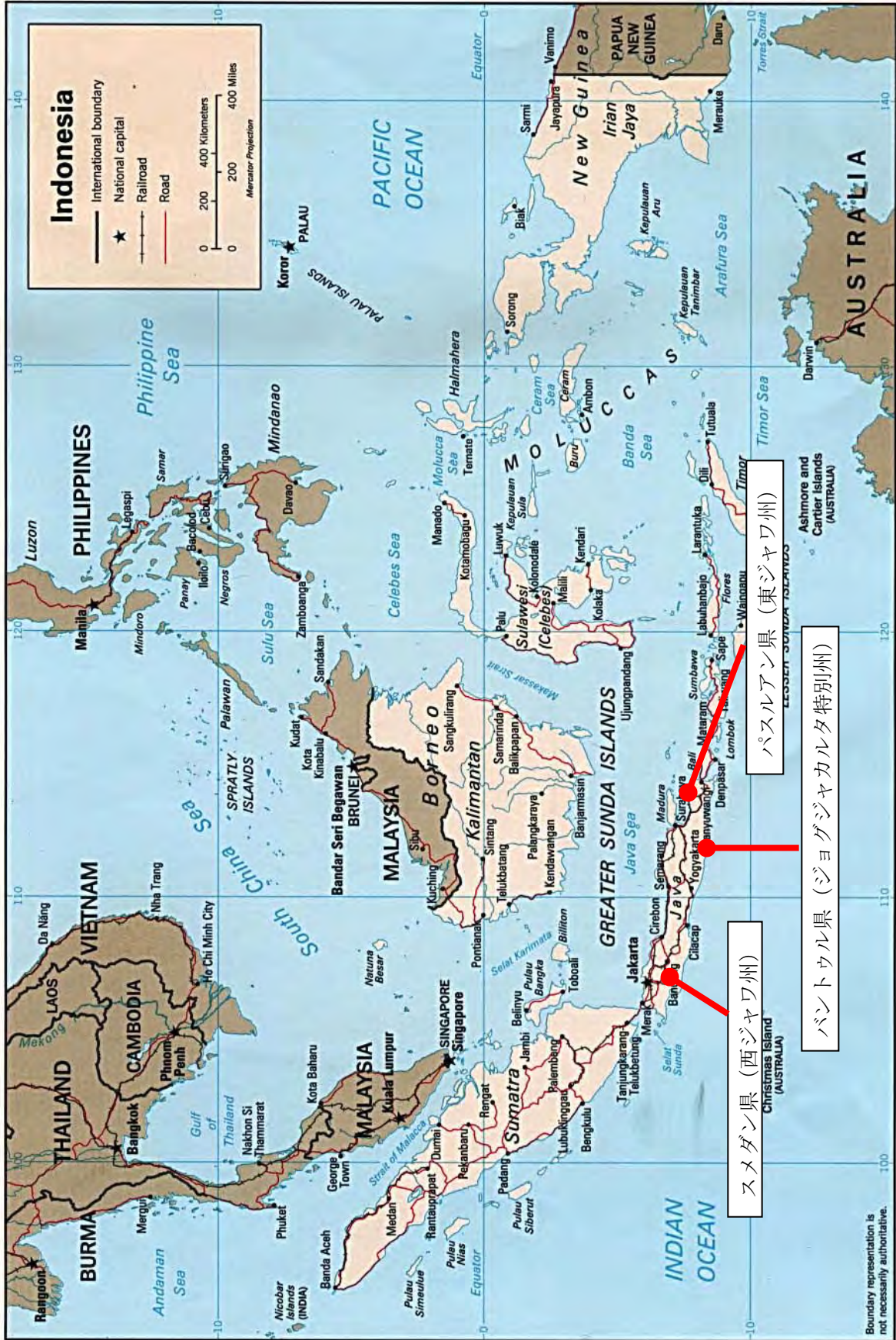
このたび、プロジェクト開始から1年を経たところで、中間時点におけるプロジェクト実施の現状分析、実績確認とプロジェクトの運営指導並びに今後の計画の見直しを目的として、2007年7月22日から8月6日まで運営指導調査団を現地に派遣した。

本報告書は、同調査団の調査・協議結果と、その後実施された実施協議の結果を取りまとめたもので、今後のプロジェクトの進展に広く活用されることを望むものである。

ここに、本調査にご協力いただいた内外関係者の方々に深い謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第である。

平成20年4月

独立行政法人国際協力機構
人間開発部
部長 西脇 英隆



写 真



写真 1: バントウル県での授業研究 (理科)
公開授業 (於: イモギリ第3中学校)



写真 2: ジョグジャカルタ国立大学関係者との
意見交換



写真 3: パスルアン県での授業研究 (数学)
授業案作成 (於: ヌグリン第2中学校)



写真 4: パスルアン県での全校型授業研究
専門家による指導 (於: プリゲン第1中学校)



写真 5: パスルアン県教育局との協議
(於: パスルアン県事務所)



写真 6: 合意文書に係る協議及び署名
ファスリ総局長 (左) と水野団長 (右)
(於: 国民教育省)

略 語 表

略語（インド ネシア語）	正式名	日本語
DGQITEP	Directorate General of Quality Improvement of Education and Education Personnel	教職員資質改善総局
Drs.	Doktorandus	学士（男性）
IMSTEP	Indonesia Mathematics and Science Teacher Education Project	インドネシア初中等理数科教育拡充計画
LPMP	Educational Quality Assurance Institution	教育の質保証機関
MGMP	Subject Teacher Support Program for Secondary Schools	教科別現職教員研修
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
REDIP	Regional Educational Development and Improvement Program	地方教育行政改善プロジェクト
SISTTEMS	Strengthening In-Service Teacher Training of Mathematics and Science Education at Junior and Secondary Level	インドネシア共和国前期中等理数科教員研修強化
SMA	Upper Secondary Schools	高等学校
SMP	Lower Secondary Schools	中学校
TPK	Sub-district Educational Development Committee	郡中学校開発委員会
UM	State University of Malang	マラン国立大学
UNY	State University of Yogyakarta	ジョグジャカルタ国立大学
UPI	Indonesia University of Education	インドネシア教育大学

目 次

序 文
地 図
写 真
略語表
目 次

第 1 章	運営指導調査の概要	1
1-1	プロジェクトの背景	1
1-2	運営指導調査の目的	1
1-3	評価調査団の構成	2
1-4	調査日程	2
1-5	対象プロジェクトの概要	4
1-6	主要面談者リスト	5
第 2 章	調査の方法	8
2-1	評価グリッド	8
2-2	評価 5 項目	8
2-3	情報収集の方法	9
第 3 章	運営指導調査の結果	10
3-1	プロジェクトの進捗状況	10
3-2	プロジェクトの達成度	11
3-3	各対象県における実施状況	13
3-4	実施プロセス	14
第 4 章	結論・提言	15
4-1	実施と普及プロセスにおける質の確保	16
4-2	組織的及び財政的な体制強化	17
4-3	MGMP 活動のメカニズム	18
4-4	その他	19
添付資料		
1	合意文書（ミニッツ）	23
2	評価グリッド	50
3	面談記録	52
4	対象校リスト	73
5	全校型授業研究ガイドライン	76

第1章 運営指導調査の概要

1-1 プロジェクトの背景

インドネシア共和国（以下、インドネシア）は、2008年までに9年制義務教育の達成を目指しており、就学率の向上、質的改善、学校運営強化などの課題を重視している。質的側面のうち、とりわけ理数科教育については深刻な停滞が内外の識者によって指摘されている。

インドネシア政府は、教育分野の中期開発計画（2005-2009）において、①教育機会の拡大、②教育の質の向上、及び③教育行政の改善の3点を最重要事項としてあげており、本協力は②教育の質の向上に資する支援として位置づけられる。特に教科別現職教員研修（Subject Teacher Support Program for Secondary Schools: MGMP）の再活性化を通じた教員の質向上は、国民教育省教職員資質改善総局（Directorate General of Quality Improvement of Education and Education Personnel: DGQITEP）の優先事項の一つである。

本プロジェクトの前身となる1998年から5年間行われた技術協力プロジェクト・インドネシア初中等理数科教育拡充計画（Indonesia Mathematics and Science Teacher Education Project: IMSTEP）では、インドネシア教育大学（Indonesia University of Education: UPI）、マラン国立大学（State University of Malang: UM）、ジョグジャカルタ国立大学（State University of Yogyakarta: UNY）の3つの大学（以下3大学）の理数科教育学部の学部教育の拡充を目的に行われた。その成果として、教員養成課程のシラバス全面改訂や、教科書、実験指導書、機材取扱書等の作成が行われた。

さらに大学と教育現場の効果的連携を通じた授業改善と教員の指導力向上など、質的改善へ向けた取り組みが2003年から2年間、フォローアップ協力で展開された。具体的には3大学の周辺のパイロット校（普通中学校・高校）において、大学教員がモデル授業を実施するほか、授業研究を通じた教授法改善のための指導を行った。この結果、大学ほか学校教員の意識の変化や教授能力の向上、生徒の成績向上という成果をあげた。

一方でインドネシアには独自のMGMPが存在していたものの、地方分権化の混乱なども加わり、その研修が各県で効果的に運営されていない状況が問題とされていた。

本プロジェクトでは、これら協力に関わった3大学と教育現場の連携により、今までのIMSTEP、フォローアップ協力の成果を活かしつつ、MGMP（理科及び数学）を再編・再活性化すること、MGMPに授業研究という手法を導入すること、インドネシアにて適用可能なMGMPのモデルとしての確立を目指し、行政・教育現場両面から協力活動を行うものである。

プロジェクト開始より約1年3カ月が経過し、ある程度の成果が確認されていることをふまえ、これまでの活動の現状把握と終了時評価調査の方針策定のために、本運営指導調査団の派遣が計画された。

1-2 運営指導調査の目的

- (1) 「インドネシア共和国前期中等理数科教員研修強化（通称 SISTEMS）」（2006年5月～2008年10月：2.5年間）の投入実績、活動進捗、現時点での成果達成度を確認する。
- (2) プロジェクト実施上の問題点・課題を明確にし、残りの期間におけるプロジェクト活動へ

ードバックする方策を示す。

- (3) 2008年5月実施予定の終了時評価調査に向けて国民教育省と方向性を協議する。現行プロジェクト・デザイン・マトリックス (Project Design Matrix: PDM) の指標面を現状に即して修正する。修正 PDM を調査結果と合わせてまとめたものを署名文書 (M/M) としてインドネシア側と合意する。

1-3 評価調査団の構成

担当	氏名	所属
団長	水野敬子	人間開発部課題アドバイザー／国際協力専門員
基礎教育	小泉高子	JICA 初中等教育アドバイザー (国民教育省) (現地参团)
協力企画	館山丈太郎	インドネシア事務所所員 (現地参团)
評価計画	二瓶直樹	人間開発部第一グループ基礎教育第一チーム職員

1-4 調査日程

月日	曜日	水野団長 二瓶団員	小泉団員	館山団員	宿泊地
7/22	日	移動 (東京→ジャカルタ)			ジャカルタ
7/23	月	8:30 JICA インドネシア事務所 13:00 専門家との協議 15:30 国民教育省表敬・協議			ジャカルタ
7/24	火	7:15 移動 (ジャカルタ→マラン) (SJ250) 10:00 マラン国立大学表敬 11:30 マラン国立大学付属高校訪問			マラン
7/25	水	7:00 移動 (マラン→パスルアン) 8:00 パンダアン第2中学校訪問 10:30 プリゲン第1中学校にて全校型授業研究視察 13:30 パスルアン県教育局にて協議 16:00 移動 (パスルアン→マラン)			マラン
7/26	木	6:00 移動 (マラン→パスルアン) 8:30 スグリン第2中学校 MGMP (数学) 視察 12:00 移動 (パスルアン→スラバヤ) 14:00 東ジャワ州 LPMP 訪問 19:15 移動 (スラバヤ→ジョグジャカルタ)			ジョグジャカルタ

7/27	金	9:30 ジョグジャカルタ特別州教育局訪問 13:30 ジョグジャカルタ国立大学との協議		ジョグジャカルタ
7/28	土	7:00 移動 (ジョグジャカルタ→バントウル) 8:00 イモギリ第3中学校 MGMP (理科) 視察 10:30 プレレ第2中学校 MGMP (理科) 視察 12:00 移動 (バントウル→ジョグジャカルタ) 午後: 資料整理		ジョグジャカルタ
7/29	日	資料整理		ジョグジャカルタ
7/30	月	7:00 移動 (ジョグジャカルタ→バントウル) 7:30 バントウル県教育局訪問 10:00 バントウル第1中学校訪問 午後 移動 (バントウル→ジョグジャカルタ→ジャカルタ)		バンドン
		16:00 移動 (ジャカルタ→バンドン)	16:00 移動 (ジャカルタ→バンドン)	
7/31	火	8:30 西ジャワ州教育局訪問 10:00 バンドン第12中学校視察 13:30 インドネシア教育大学訪問	水野団長・二瓶団員に同じ。	バンドン
8/1	水	9:30 チシツ第3中学校にて MGMP (数学) 視察 14:30 スメダン県教育局 17:00 移動 (スメダン→ジャカルタ)	同上	ジャカルタ
8/2	木	午前 資料整理 午後 団内協議		ジャカルタ
8/3	金	10:00 国民教育省教員の質改善局との協議 午後 団内協議		ジャカルタ
8/4	土	資料整理		ジャカルタ
8/5	日	資料整理		ジャカルタ
8/6	月	9:00 国民教育省にてミニッツ署名 14:00 在インドネシア日本大使館報告 15:30 JICA インドネシア事務所報告		ジャカルタ

1-5 対象プロジェクトの概要

本運営指導調査の結果、改訂版 PDM について先方と協議を重ねた。内容は合意文書の本文および別添に記載されている。以下のプロジェクト概要の内容は改訂版 PDM の内容に基づくものである。また、PDM 改定の詳細については第 3 章に記載する。

(1) 協力期間

2006 年 5 月～2008 年 10 月 (2.5 年間)

(2) 上位目標

1. プロジェクト対象州 (西ジャワ州、東ジャワ州、ジョグジャカルタ特別州) において、授業研究を活かした MGMP が教員の継続的な専門力量向上の形態として普及する。
2. プロジェクト対象県において、生徒の理数科の学力が向上する。

(3) プロジェクト目標

プロジェクト対象県において、理数科教員の質向上に資する授業研究を活かした MGMP 活動のモデルが構築される。

(4) 成果・活動

- 1) 中央及びプロジェクト対象県の教育行政官が MGMP 活動の有効性について認識し、同活動に必要な行財政の措置をとる。
 - 1-1 インセプション・ソーシャライゼーション会議を開く。
 - 1-2 近隣県を対象に普及のための MGMP フォーラムを開催する。
 - 1-3 授業研究を活かした MGMP 活動の普及戦略を作成する。
- 2) プロジェクト対象県において、効果的な MGMP 活動が定期的に行われる。
 - 2-1) プロジェクト対象県において、MGMP 活動のファシリテーターが育成される。
 - 2-2) プロジェクト対象県において、中学校の校長が MGMP 活動の有効性を認識し、同活動に必要な措置をとる。
 - 2-3) 理数科教員が授業研究を活かした MGMP 活動を通じて実践的な教授能力を身につける。
 - 2-1 MGMP 活動の現況分析を行う。
 - 2-2 授業研究を応用した MGMP 活動の詳細な活動を計画する。
 - 2-3 MGMP 活動のファシリテーター研修を実施する。
 - 2-4 学校運営研修 (校長研修) を実施する。
 - 2-5 MGMP 活動において、授業研究を実践する。
 - 2-6 MGMP 活動において、全校的授業研究を試行的に実践する。

3) MGMP 活動のメカニズムが構築される。

3-1 MGMP 活動の経験をガイドラインに取りまとめる。

3-2 プロジェクトにて MGMP 活動のモニタリング・評価の方法とツールが開発される。

3-3 県教育局と大学が連携してモニタリング・評価を実施する。

3-4 評価ワークショップを開催する。

3-5 プロジェクトにてモニタリング・評価の経験を MGMP 運営改善のためのガイドラインに取りまとめる。

4) SISTTEMS バントゥル県緊急支援プログラムのもとで、郡教育委員会 (TPK)と学校は活動計画案を提出し、SISTTEMS の活動資金を用いて前期中等教育の再建・改善に資する活動を実施する。

4-1 ファシリテーターを選定し、訓練する。

4-2 郡インセプションミーティングを開催する。

4-3 TPK と学校チームを組織する。

4-4 各 TPK と学校は配賦金を受けるための活動案を提出する。

4-5 活動資金を配賦する。

4-6 各 TPK と学校は提案した活動を実施する。

4-7 各 TPK と学校は活動報告書及び財務報告書を提出する。

(5) 対象サイト (対象校リストは付属資料 4 参照)

西ジャワ州スメダン県 (26 郡)

ジョグジャカルタ特別州バントゥル県 (17 郡)

東ジャワ州パスルアン県 (24 郡)

1-6 主要面談者リスト

(1) インドネシア関係者

氏 名	所 属
Dr. Fasli Jalal	国民教育省教職員資質改善総局 総局長
Dr. Sumarna Surapranata	国民教育省教職員資質改善総局 局長 (研修開発)
Mr. Ahmad Rifai	国民教育省教職員資質改善総局 人材・研修開発課長
Mr. Agus Wahyu Sadikin	国民教育省教職員資質改善総局 人材・研修開発課
Prof. Dr.H. Sparno	マラン国立大学 学長
Drs. Muchtar Abdul Karim	マラン国立大学 理数科学部学部長
Drs. Ibrohim	マラン国立大学 講師
Mr. Istamar Syamsuri	マラン国立大学 講師

Ms. Novita Dwi Aggraem	マラン国立大学 職員
Mr. Ridwan	マラン国立大学付属学校（ラボ高校）校長
Mr. Sutopo	マラン国立大学付属学校（ラボ高校）教頭
Ms. Jumiah	マラン国立大学付属学校（ラボ高校）職員
Ms. Istri Setyowati	マラン国立大学付属学校（ラボ高校）職員
Ms. Husnul Chohmah	マラン国立大学付属学校（ラボ高校）職員
Mr. Soegeng Supmali	パングラヤン第2中学校 教頭
Ms. Eko Buli Setyowati	パングラヤン第2中学校 数学教員
Ms. Ummi Chusnia	パングラヤン第2中学校 物理教員
Mr. Sodig Nuch	パルアン県教育局 指導主事
Mr. Anwar	パルアン県教育局 指導主事
Mr. Ustadhi	パルアン県研修ファシリテーター（物理）
Mr. Firdaus	パルアン県研修ファシリテーター（数学）
Mr. Bambang Pudjiono	パルアン県教育局 局長
Mr. H. Iswahyudi	パルアン県教育局 初等・中等教育課長
Ms. Nurha Purisa	パルアン県教育局 職員
Mr. Kuswanto	ヌグリ第2中学校 教頭
Mr. Dahat Agus Hermawan	東ジャワ州教育の質保証機関 総務課長
Ms. Sri Utami	東ジャワ州教育の質保証機関 教育人材改善課長
Mr. Kistono	東ジャワ州教育の質保証機関 研修講師（英語）
Mr. Bagod Sujal	東ジャワ州教育の質保証機関 研修講師（英語）
Mr. Sugito	ジョグジャカルタ特別州教育局 局長
Mr. Partini	ジョグジャカルタ特別州教育局 職員
Mr. Totok Sudarto	バントウル県教育局初等・中等教育課長
Dr. Sukirman	ジョグジャカルタ国立大学理数科学部 学部長
Ariswan	ジョグジャカルタ国立大学理数科学部 副学部長
Drs. Sutiman	ジョグジャカルタ国立大学理数科学部 副学部長
Drs. Yosaphat Sumardi	ジョグジャカルタ国立大学理数科学部 講師
Mr. Sudarman	バントウル県教育局 課長
Mr. Totok Sudarto	バントウル県教育局 初等教育課長
Ms. Partini	バントウル県教育局 カリキュラム課長
Mr. Bambang Edy Sulistiyana	バントウル第1中学校 校長
Drs. H. Ruchyat	西ジャワ州教育局 副局長
Drs. Nandang Junaedi	西ジャワ州教育局 職員
Drs. H. Asep Hilman	西ジャワ州教育局 職員
Dr. Sumar Hendayana	インドネシア教育大学理数科学部 学部長
Mr. Didi Suyandi	インドネシア教育大学理数科学部 副学部長
Mr. Harun Imansyah	インドネシア教育大学理数科学部 講師

Ms. Hj Aas Hasanah	バンドン第 12 中学校 校長
Mr. Ahmad Darojat	バンドン第 12 中学校 教頭
Ms. Hj Siti Aisyah	バンドン第 12 中学校 教員
Ms. Eha Harningsih	バンドン第 12 中学校 教員
Mr. A. Kusnadi	スメダン県教育局 課長
Mr. Mardjohan	スメダン県教育局 教員管理課長
Mr. Hendrawan	スメダン県教育局 初等教育課長
Mr. Edi Suwandi	スメダン県教育局 職員
Mr. Timbul K.	スメダン県教育局 指導主事

(2) 日本人関係者

氏 名	所 属
枝 慶	在インドネシア日本大使館
斎藤 英介	インドネシア前期中等教育教員研修強化 (授業研究)
西谷 泉	インドネシア前期中等教育教員研修強化 (数学教育)
佐藤 雅彰	インドネシア前期中等教育教員研修強化 (理科教育・学校運営)

第2章 調査の方法

2-1 評価グリッド

本調査では運営指導調査であり、評価調査ではないが、2008年5月に実施予定の終了時調査に向けた準備段階とも位置づけ、評価グリッドを作成した。主に、有効性と自立発展性達成度、実施プロセスの観点にも留意し、プロジェクト関係書類の分析、現場視察、プロジェクト関係者とのインタビューや質問票などにより調査を実施した。

評価グリッドの作成については、「JICA 事業評価ガイドライン（2004年改訂版）」に基づき、ログフレームを用いた評価手法に則って作成した。

- (1) 改訂版プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix: PDM）に基づき、幾つかのデータ収集方法を通じて入手した情報をもとに、プロジェクトの現状を実績・実施プロセス・因果関係の観点から把握・検証する。
- (2) 「妥当性」「有効性」「効率性」「インパクト」「自立発展性」の5つの観点（評価5項目）から、プロジェクトの実績を評価する。
- (3) プロジェクトの成否に影響を及ぼした様々な要因の特定を試み、プロジェクトの残りの実施期間の活動に対しての提言と類似案件に対する教訓を抽出する。

2-2 評価5項目

当プロジェクトの評価に適用される評価5項目の各項目の定義は以下の表1のとおりである。

表1 評価5項目の定義

評価5項目	JICA 事業評価ガイドラインによる定義
妥当性	プロジェクトの目指している効果（プロジェクト目標や上位目標）が、受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か、公的資金である ODA で実施する必要があるかなどといった援助プロジェクトの正当性・必要性を問う視点。
有効性	プロジェクトの実施により、本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされているのか（あるいは、もたらされるのか）を問う視点。
効率性	主にプロジェクトのコストおよび効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいは、されるか）を問う視点。
インパクト	プロジェクトの実施によりもたらされる、より長期的・間接的効果や波及効果をみる視点。この際、予期しなかった正・負の効果・影響も含む。
自立発展性	援助が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか（あるいは持続の見込みはあるか）を問う視点。

出所：JICA 事業評価ガイドライン（2004）

2-3 情報収集の方法

評価は定性的データおよび定量的データに基づき実施した。情報の主な入手先は以下のとおりである。

- プロジェクト関連文書
 - インセプションレポート
 - ベースライン調査報告書
 - プロジェクト事業進捗報告書 第1号
 - 教科別現職教員研修フォーラム開催報告書
 - 業務完了報告書 第1年次
 - プロジェクト事業進捗報告書 第2号
- インタビュー¹
 - 国民教育省、スメダン県教育局、バントゥル県教育局、パスルアン県教育局
 - インドネシア教育大学、ジョグジャカルタ国立大学、マラン国立大学
 - 日本人専門家チーム
 - 対象中学校における校長及び教員（パスルアン県パンダアン第2中学校、バントゥル県バントゥル第1中学校）
- プロジェクト・サイトの視察
 - 教科別教員研究（MGMP）の見学（パスルアン県ヌグリン第2中学校における数学、バントゥル県イモギリ第3中学校における理科、同県プレレ第2中学校における理科、スメダン県チシツ第3中学校における数学）
 - 全校型授業研究の見学（パスルアン県プリゲン第1中学校）

¹ 各インタビューの記録は別添3の面談記録のとおり。

第3章 運営指導調査の結果

調査団は調査の過程において、現行プロジェクトの実施状況に鑑み、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）の内容を改訂する必要性を認識した。終了時評価調査に向けて、当初 PDM において暫定的に設定されていた成果指標についても適切な評価が行われるように、現状に合わせた形で再設定を行った。

協議を重ねた結果、インドネシア側及び日本側双方で全ての関連事項を明確にし、当初 PDM の改訂について合意した（改訂 PDM は付属資料 1 合意文書の ANNEX 2 を参照）。

PDM 改訂の主要な点は以下のとおり。

- 中部ジャワ地震により甚大な被害を受けたバントウル県にて、教育環境を再建するために実施した緊急支援プログラムを反映させるために、成果 4 及び活動 4-1 から 4-7 を追加した。
- 県単位で実施されている教科別現職教員研修（MGMP）とプロジェクトで実施している MGMP を区別するために、MGMP という言葉の後に「ウィラヤ」という言葉をカッコにて挿入した²。
- ベースライン調査及びエンドライン調査により得られる具体的な分析結果を指標面に加えた。
- 日本人専門家の投入内容を実際の投入にあわせて変更した。
- MGMP のガイドラインとモニタリング・評価ガイドラインは将来的に他地域へ MGMP を普及するためにも、MGMP を構成する 1 つのセットとして作成する必要があるため、成果 3 を変更し、更に活動 2-7 を 3-1 として整理した。
- プロジェクトに深く関与する 3 大学は PDM 上、インドネシア側投入となっていることから、「リソース機関としての 3 大学」を前提条件から外部条件と位置づけを変更した。

3-1 プロジェクトの進捗状況

1 年次に起こった地震の影響によるバントウル県における活動変更以外は、基本的に計画どおりプロジェクトは順調に進捗している（ミニッツの ANNEX 3 を参照）。

3-1-1 投入状況

(1) インドネシア側投入

国民教育省、インドネシア教育大学（UPI）、ジョグジャカルタ国立大学（UNY）、マラン国立大学（UM）、対象県教育局の各インドネシア側関係者は PDM 記載どおりプロジェクトに必要な投入を行っている。3 大学それぞれが 40 名から 90 名の学部関係者をプロジェクト実施のためのリソースとして配置していることは特筆に価する。また、もう 1 点注目すべきことは、国民教育省教職員資質改善総局（DGQITEP）が授業研究をプロジェクトの非対象州において授業研究のソーシャライゼーション（啓発）のために、財政措置を行っていることである。

² 日本側は本プロジェクトにおける MGMP のクラスターの単位を「ウィラヤ」というインドネシア語で表現しているが、改訂版 PDM においては、ウィラヤではなく、同じく一定の幅を持った地域概念を表すインドネシア語である Rayon(ラヨン)を使用することで最終的に合意した（添付資料 1 合意文書の ANNEX2 を参照）。

(2) 日本側投入

日本側は PDM 記載どおりプロジェクトに必要な投入を行っている。また、2006 年 9 月から 2007 年 3 月までのバントゥル緊急復興プログラム実施のために約 30 億ルピア（日本円にて約 4,000 万円）の学校配賦金を拠出している。

3-1-2 プロジェクト活動の進捗状況

これまでのところ、PDM 記載のプロジェクト活動は対象 3 県において実行されている。これらの活動は具体的には、インセプション会合、ソーシャライゼーション会合、学校運営研修、MGMP 普及フォーラム、MGMP ファシリテーター研修、評価ワークショップ、そして MGMP 活動の実施である。更に、全校型授業研究がスメダン県及びパスルアン県のパイロット校において開始され始めた段階にある。地震により甚大な被害を受けたバントゥル県については、緊急復興プログラムが実施されることで当初のプロジェクト活動が変更されているため、全校型授業研究の実施は他の 2 県と並行した形では行われていない。2007 年 3 月に緊急復興プログラム終了後、バントゥル県では当初のプロジェクト活動を実施する状況に戻り、現在他 2 県に遅れながらも当初の活動を実施し始めている段階にある。

3-2 プロジェクトの達成度

本プロジェクト協力期間の中間地点において、本プロジェクトは概ね順調に進展している。詳細は以下の表の通りである。

表 プロジェクトの達成状況

目標・成果	達成状況
プロジェクト目標: プロジェクト対象県において、理数科教員の質向上に資する授業研究を活かしたMGMP活動のモデルが構築される	エンドライン・サーベイの結果を見てからの判断となるが、MGMP活動は先行2県で順調に進められている。後発のバントウル県ではMGMP活動の形態が先行2県とは異なるが、地震による遅れをキャッチアップすべく努力中である。
目標とする成果1: 中央及び対象県の教育行政官が授業研究を導入したMGMP活動の有効性について認識し、同活動に必要な行財政措置を取る	【国民教育省】 授業研究を総局の政策として全国普及する予算措置をとっている 【対象3州】 州教育局が授業研究の成果に注目、州内の普及に関心 【対象3県】 スメダン県、パスルアン県の先行2県は授業研究を実践した1年間の成果の大きさに瞠目、授業研究の継続・拡大にコミットメントを表明。 バントウル県も意欲的に先行2県を追いかけている。
目標とする成果2:プロジェクト対象県において、効果的なMGMP活動が定期的に行われる	【スメダン県】 水曜日と土曜日に、それぞれ数学と理科について実施されている。全県を8つの地区(ウイラヤ)に分割して、2週毎に活動を行っている。 【パスルアン県】 2007年2月より、8つのウイラヤにて実施されている。数学は木曜日、理科は土曜日。各ウイラヤは、2週ごとに、合同で「授業計画」作りのためのプラン、そして、授業の観察とリフレクションを実施している。 【バントウル県】 2007年4月より、8つのウイラヤにて実施されている。数学は木曜日、理科は土曜日。各ウイラヤは、基本的に2週ごとに「授業計画」作りと授業の観察・リフレクションを実施しているが、その予定はウイラヤ毎に異なり、一律ではない。
目標とする成果2-1: 対象県においてMGMP活動のファシリテーターとなる教員リーダーが育成される	【スメダン県・パスルアン県】 MGMPファシリテーター研修とMGMPでの実践を通じ、MGMPファシリテーターが力と自信をつけている他、彼らの中に同僚性が育ちつつある。
目標とする成果2-2: 対象校の校長が授業研究を活かしたMGMP活動の有効性を確信し、同活動に必要な措置をとる	各校の校長による授業研究に対する理解は進んでいるが、MGMPをwilayahレベルで再編したことについての有効性に関する理解は進んでいない。
目標とする成果2-3: 理数科教員が授業研究を活かしたMGMP活動を通して実践的な教授能力を身につける	【スメダン県】 平均出席率は、85-90% であり、他2県と比較すると最も高い出席率を維持している。(評価ワークショップの報告) 【パスルアン県】 出席率は下がり始めており、第1学期は80%程度であったのが、第2学期は65-75%程度となっている。 パスルアン県においては、本プロジェクトのMGMP運営原則である、教員全員参加が促されていない。 【バントウル県】 数値はないが、全教員が参加しているとのことである。
目標とする成果3: 授業研究を活かしたMGMP活動のモニタリング評価メカニズムが構築される	UPIとUMがそれぞれ授業研究に関するマテリアルを出している。また、三大学がそれぞれ評価・モニタリングチームが置かれ、独自に開発したツールを用いて実地にモニタリングと評価活動を定例的に続けている。今後、各大学とも、専門家の協力を得つつ、実務ベースでのMGMP活動ガイドラインと評価・モニタリングガイドラインを作成予定。
目標とする成果4: SISSTEMS/バントウル県緊急支援プログラムもとで、郡教育委員会(TPK)と学校は活動計画案を提出し、SISSTEMSの活動資金を用いて前期中等教育の再建・改善に資する活動を実施する。	1. 活動資金は遅滞なく配布され、会計報告も問題なく行われた。 2. 活動は概ねスムーズに進められた。一部資機材の不足や工期の遅れなどあったが、3月末には活動は終了した。また、本プログラムの結果、大学と中学校間の信頼が醸成された。 3. - 校舎・設備の改修 77校 - 緊急教室の建設 7校 - 教材・機材の調達 71校 - 教科書の調達 58校 - トラウマカウンセリング関連活動 12校 その他 - コンピューターの調達 59校 - コンテスト(教科別、芸術、スポーツ、宗教)12校

3-3 各対象県における実施状況

(1) 西ジャワ州スメダン県

スメダン県におけるプロジェクト活動は順調に進行している。その要因の一つにスメダン県教育局の強力なコミットメントが挙げられる。例えば、本プロジェクトの MGMP 開催日は、当該科目の授業は行わないよう、県教育局長から各校長に通知が出ており、また MGMP の欠席者に関して、教育局から校長に理由の照会が行われるといった具合に、理数科教師全員が MGMP 活動に参加することを奨励している。次に、パートナーである UPI の強力なサポート体制と的確な指導が挙げられる。UPI はスメダン県の 8 つのウィラヤに対して 80 人の講師陣を投入しており、2007 年度に更に 8 人追加予定であることにも見られるように、サポート体制が非常に手厚い。また、指導の姿勢についても、出すぎず引きすぎず、教師の自主性を尊重した態度で接しており、相手方の信頼も高い。以上のようなことを背景に、ウィラヤレベルの MGMP を活動単位とした授業研究は順調に進展しており、今後は更に全校型授業研究に取り組むところである。

(2) ジョグジャカルタ特別州バントウル県

他の対象 2 県と比較した場合、バントウル県におけるプロジェクト活動の進捗は 2006 年 5 月に発生した地震の影響が非常に大きかったこともあり、遅れをとっている状況である。バントウル緊急復興プログラムは荒廃した教育環境を再建すべく REDIP モデルの手法を活用して実施された。学校配賦金が県内の 15 の郡教育開発委員会及び 106 の中学校に対して供与され、多くの資金は破壊された学校の修復や教材・資材の購入に充てられた。合計 30 億ルピアがバントウル緊急復興プログラムに投入された。県や学校単位で存在する既存の MGMP (プロジェクトで立ち上げたウィラヤ単位のものではない) を強化するための貢献という面では、効果は限定的であったものの、地元の教育環境を復興・再建するために、本プロジェクトが果たした役割は重要である。

2007 年 3 月緊急復興プログラム終了後、関係者による強靱な意欲が、バントウル県が MGMP を初め、ファシリテーター研修や校長研修など他のプロジェクト活動を日本人専門家の存在なしで実施することを可能にした。プロジェクト活動の進捗は他 2 県に遅れをとっている。

県政府はファシリテーター研修や校長研修を日本人専門家チームにより計画された回数以上に実施することに対して強い意欲を示している。県教育局と UNY の関係は、バントウル緊急復興プログラムを通して強力なものとなり、それが想定以上に早くプロジェクト活動を実施する原動力となっている。

(3) 東ジャワ州パスルアン県

パスルアン県のプロジェクト活動の進捗は計画どおりである。ウィラヤ単位の授業研究を取り入れた MGMP は定期的開催されており、様々な関係者間において、授業研究が教授能力・学習能力を向上させる上で、非常に効果的なアプローチであることを認識している。UM による取り組みがプロジェクトを迅速に進める上で重要になっている。また、パスルアン県教育局の関与も強くなりつつある。

しかし、県内におけるウィラヤ単位の MGMP への教員の出席率は 65～75%と比較的低いことが報告されており、これはプロジェクトの目標指標（80%）を下回っている。この状況に関するいくつかの理由が、県教育局、校長や教員とのインタビューから明らかになった。県教育局及び学校からの財政的制約による各ウィラヤへの人数割当が最大 37 名に設定されていること、第 9 学年（中学 3 年生）は卒業統一試験の準備を優先していることなどがある。全ての対象教員がウィラヤ単位の MGMP に参加することを担保するために、学校長並びに県教育局は財政的及び行政的な手段を講じることが推奨される。

3-4 実施プロセス

バントゥル県では、地震の影響が大きかったことにより、1 年次は計画どおりの活動が実施されなかった。代替として、地元の教育環境を再生・再建することを目的にバントゥル緊急復興プログラムが急遽計画・実施された。地震の影響のため、プロジェクト実施のスケジュールには当初の実行計画よりも遅れが生じている。各種研修及びワークショップに加え、全校型授業研究も、当初 2007 年 8 月に選定されたパイロット 2 校にて実施されるはずであったが、現在実施に向けた準備段階にある。

本プロジェクトにより MGMP 活動がウィラヤという単位で再編されたものの、全ての理数科教員が MGMP 活動に参加しているという状況に至っていないことが確認された。また、MGMP に関する状況は県によって異なっている。教員は自分の専門としている教科（数学または理科）の MGMP に参加している。理科教員については、MGMP 活動が更にグループ（物理と生物）に分かれて実施されており、自分の担当教科の MGMP に参加している状況である。

財政的な観点からは、教員が MGMP に参加するための必要経費が県教育局及び DGQITEP から学校へ配分されている。しかし、全ての理数科教員が MGMP に参加することを支援するには十分ではなく、全教員の出席を実現するために学校による支援が重要となっている。

理数科を含む県単位の MGMP は現在でも実施されており、教員の中には県単位及びプロジェクトによるウィラヤ単位の双方の MGMP に出席している者もいる。そういった教員の中には、ウィラヤ MGMP で学んだ授業研究を県単位の MGMP にて紹介しているケースもあり、これはプロジェクトの好ましいインパクトとなっている。

第4章 結論・提言

本プロジェクトで開発を目指しているモデルは、教科別現職教員研修（MGMP）を、特に前期中等レベルの理科及び数学を担当している教員の専門能力を効果的かつ公平に開発する手段として再活性化することに貢献するものである。そのために、以下の戦略やアプローチが導入されている。1) MGMP のより身近な単位である郡またはウィラヤにおける再編、2) MGMP における授業研究の導入、3) 教室内における教授・学習プロセスの質改善のためのインドネシア教育大学（UPI）、ジョグジャカルタ国立大学（UNY）、マラン国立大学（UM）の3大学、県教育局、学校間の効果的な連携・共同、である。

入手した情報によると、政策レベル及び学校現場における授業研究に対する関心は高まっている。政策レベルでは、国民教育省が授業研究の方法を他県・他州へ普及するために強いコミットメントを持っていることを示す多くの事例が確認された。

更に確認されたことは、授業研究はインドネシアの教育状況において、教員の専門性を育成するための潜在的な手段であること、そして授業研究の一連のサイクルを経験することは、参加している教員自身の授業の質改善に対する意欲に影響を与えている。しかし、このアプローチが生徒の学びに対してポジティブなインパクトを与えるためには、授業研究が基本となる重要事項を踏まえて実施されること、すなわち基本的な構造（計画・実施・評価・改善）及び原則（生徒の学習面に焦点をおいて、各サイクルの実習から得られる共同・相互学習）、そして目的（全参加者の授業における教授・学習プロセスについて継続的に改善を成し遂げること）を踏まえて実施される必要がある。

上記の点を念頭におき、調査団は授業研究をその質を維持しながら普及することが大きな挑戦であると認識した。本プロジェクトの対象県においても授業研究の普及の質に関して、各県の授業研究に関する取り組みの度合い、経験の蓄積そして根本の理解において状況が異なっていることが確認された。将来的に、既に述べられた授業研究の基本原則がすべての関係者により適切かつ効果的に共有・理解され、さらに実践されることが重要である。

MGMP の再編に関しては、対象県においてプロジェクト終了後も、群またはウィラヤ単位の MGMP 活動を継続し、そのような MGMP の再編を同じ州内の他県へも拡大して実施するには、組織的及び財政的な基盤を敷いていくための更なる努力が必要となるであろう。対象県においてでさえ、従来の県単位の MGMP がプロジェクトの MGMP と並行して実施されている状況にある。

さらには、各県教育局と関係大学間での効果的な連携を伴った形で授業研究の質を確保するメカニズムを探求する必要がある。プロジェクトの全体的な実施責任を担うカウンターパート機関は対象各県の教育局であるが、協力大学が行政及び技術面の双方においてプロジェクト実施全体の調整役となり重要な役割を果たしている点は特筆すべき事項である。

上述の調査結果も踏まえて、以下プロジェクトの残り期間における課題及び対処事項について提言を記載する。

4-1 実施と普及プロセスにおける質の確保

授業研究という手法は、参加する教員が同僚の教員と共同で授業を計画し、生徒の学習プロセスに注目して、授業を公開・観察するという機会をもたらした。その際、教員は各々が観察した授業について教授・学習プロセスの質的改善に向けた多様な視点や手法に関する討論に参加する。

しかし、この手法がインドネシアにおいて教員の専門性を継続的に強化して効果的な形として根づかためには、以下のような課題や対処事項に取り組む必要がある。

(1) 技術的及び専門的能力を備えた核となる人材の育成

3つの大学はパートナー機関であり、本プロジェクトの直接のカウンターパート機関という位置づけにない。しかしながら、3大学はプロジェクトで実施される各種研修やMGMP活動の質を確保する決定的な役割を担っている。さらには、3大学はプロジェクトの活動範囲を超えて、授業研究を取り入れたMGMPの他地域への普及に深くかかわっている状況にある。

他方、プロジェクトに関わる大学講師陣の技術的及び専門的能力の程度にはばらつきがあり、すべての人材がファシリテーター研修の質やウィラヤ単位のMGMPに対して技術的にフォローアップを行うために必要十分な能力を備えているわけではない。

したがって、核となる人材の能力強化は現行プロジェクト並びにプロジェクト終了後の普及における質の確保のために不可欠となっている。したがってかかる分野における技術支援に優先的に取り組むことが肝要である。

プロジェクトにより提供される技術協力を最大限に活用するために、具体的には以下の手段が想定される。

- 専門家チームの評価に基づいた各大学の能力の度合いに応じて、対象各県における技術支援の方策を差別化する。かかる点から、地震の影響で初年度バントゥル緊急復興プログラムが行われ、計画されたMGMP活動の進捗において遅れをとっているバントゥル県のパートナー機関であるUNYには更なる技術支援を行う。
- MGMP活動の効果的なファシリテーションのために必要とされる能力を特定し、ターゲットとする能力レベルの指標を明確にする。そしてそれらを関連大学、MGMPのファシリテーターや中心的な教員など、核となる人材と共有する。
- 本邦でのカウンターパート研修にMGMPのファシリテーションを担う3大学の核となる人材を参加させる。

(2) 各研修活動の関係性の明確化及び戦略化

プロジェクト目標の達成における各研修活動の関係性が明瞭にはなっていない。関係性を強化するために、専門家チームは各研修活動で網羅されるべき基本的な要素を整理し、各研修のファシリテーターと共有する必要がある。また、各研修活動の基本要素は、効果的なフォローアップと技術支援を担保するためにMGMP活動のモニタリング・評価ツールの中に反映される必要がある。

(3) インドネシアの文脈及び需要にあった手法の採用

プロジェクトが最大限かつ期待される効果を発現するために、インドネシアの文脈にあった形で授業研究を概念化することが求められる。このために、研修や MGMP 活動の参加者が、授業研究の各ステップがどのように授業の改善に役立つかを理解するために、授業研究と教員能力に関する国家基準を関連づけることが効果的かもしれない。これに関して、MGMP 活動への参加が、本年度開始される教員の資格認証制度のポートフォリオ評価に含まれるようにすることは検討に値する。

さらには授業研究に関するインドネシアにおけるグッドプラクティスを普及することにより、インドネシアの教育関係者間で授業研究手法に対する意識を向上していくことを推奨する。ラボ高校 (SMA Lab) のようなインドネシア初中等理数科教育拡充計画 (IMSTEP) 時代のパイロット校は、学校単位による授業研究がインドネシアの文脈で定着した成功例といえるだろう。

(4) 対象州内における質を伴った授業研究の実施と普及への留意

調査団は授業研究の普及を推し進める国民教育省教職員資質改善総局 (DGQITEP) の強い主体性及び熱心な意欲に対して敬意を表す。他方、質を伴った普及のために段階ごとに必要な措置をとることを提言する。これに関して、プロジェクトの残り期間において、質を伴った活動実施にとりわけ留意すること、対象 3 州内における効果的な普及モデルの開発を行うための取り組みや人的投入を強化することが肝要である。

4-2 組織的及び財政的な体制強化

(1) ウィラヤ単位での MGMP 再編の有効性に関するアドボカシー

関係者へのインタビューでは、授業研究の有効性が広く認識される中、MGMP をウィラヤ単位で再編したことの有効性への認識に関する言及が多くなかった。したがって、日本人専門家チームは教員の質改善における MGMP 再編による潜在的な有効性についてより明確に啓発していくこと、また、ウィラヤ単位の MGMP への教員の完全出席を実現させるためにも、全関係者によりプロジェクトで採用した方法が適切に理解・共有されることが肝要である。

(2) ウィラヤ単位の MGMP の持続性のための財政的基盤を強化すること

財政的基盤を確保することは、ウィラヤ単位での MGMP の自立発展のための必須要件である。地方政府からの財政支援は MGMP を維持するために必要不可欠である。地方政府及び DGQITEP からの財政支援に加えて、教員を MGMP に参加させるための費用を学校予算から拠出することが不可欠である。

このような観点から、学校予算を適切に計画するために必要なオリエンテーションを学校長に対して行う必要がある。それによって、対象となる教員が MGMP 活動に参加することが校長により、促進・推薦されるようになる。校長研修はそのようなオリエンテーションを強化していく場として有効

活用されるべきであり、県教育局は、校長が研修の対象となる教員を MGMP に確実に送るように、組織的にフォローアップを行うことが重要である。

(3) MGMP フォーラムを効果的な啓発の場として活用すること

2015 年までに上位目標を達成するためには、対象州は、授業研究を取り入れたウィラヤ単位の MGMP モデルの普及戦略を策定する必要がある。そのために、州教育局は、普及ワークショップである MGMP フォーラムの実施やフォローアップに密接に関わり、他県へモデルを普及するための啓発の場として効果的に活用すべきである。

さらには、州政府は、対象県、教職員資質向上総局そしてパートナー大学と共同で州レベルの普及戦略を策定すべきである。その際に、現在のプロジェクトによって培われた技術的及び専門的リソースやノウハウを十分に活用することを推奨する。

(4) 教育の質保証機関 (LPMP) との連携

各対象州の教育の質保証機関 (Educational Quality Assurance Institution: LPMP) は州内における授業研究モデルの普及支援を行うための大きな潜在能力を持っている。LPMP と財政及び行政的な視点から戦略的に共同体制を構築することを試みることが求められている。可能性のある連携の姿としては、LPMP からのブロックグラントを授業研究のモデル推進に活用することや、啓発ワークショップや各種研修の場として LPMP の持つ施設を活用することが挙げられる。

さらに、LPMP に所属する講師陣もより活発に研修活動及びウィラヤ単位での MGMP に参加し、それにより授業研究とその基本要素をより正確に理解することが重要である。

4-3 MGMP 活動のメカニズム (ガイドライン及びモニタリング)

本プロジェクトにより、ウィラヤ単位で授業研究を取り入れた MGMP 実施のためのガイドラインやツールから構成されるパッケージが開発される予定である。このパッケージは、対象県でのモデルの強化や、対象州内外の他県に広めていくために、インドネシアの関係者が活用できる重要な資料となる。

開発されるパッケージは、プロジェクトの実施を通じて得られた経験や教訓に基づいたものであり、授業研究を実践するにあたってのビジョンや基本要素を取り入れることが肝要である。これに関して、今日まで大学により開発されてきた教材を共同でレビューし、統合するために日本人専門家と 3 大学の学部関係者との共同作業が不可欠となる。さらには、モデルの実施及びその質保証のために求められる制度的支援や主要関係者間の調整事項をガイドラインに含め、意思決定者が考慮するように、配慮することが重要である。

最後に、異なるレベルの様々な関係者により開発された教材が共有される機会が確保されることが肝要である。特に、プロジェクトで開発されるパッケージは、本プロジェクトのパートナーである 3 大学以外の旧教員養成大学にも紹介されて、共有されることを強く提言する。これにより、MGMP における授業研究を全国的に普及するための技術及び専門的な体制を構築する準備に取り掛かることが実現されると考える。

4-4 その他

以下はプロジェクトの成果を効果的に普及するために、インドネシア側の教育当局により検討されるべき付随的な提言である。

- 教育チャンネルでプロジェクトの経験を放映し、広報すること
- 関心のある関係者向けに授業研究手法に関するビデオ教材開発を推進すること
- 国民教育省高等教育総局や他のパートナー大学、地方行政を含む関係者と共同して、DGQITEP が主体的に全国的な普及戦略を練ること
- 授業研究手法を全国普及するための準備段階として、旧教員養成大学の技術的リソースを強化するための具体的な措置を講ずること

付属資料

1. 合意文書（ミニッツ）
2. 評価グリッド
3. 面談記録
4. 対象校リスト
5. 全校型授業研究ガイドライン

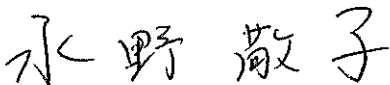
MINUTES OF MEETING
BETWEEN
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
AND
AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF INDONESIA
ON
THE TECHNICAL COOPERATION PROJECT FOR STRENGTHENING IN-SERVICE TEACHER
TRAINING OF MATHEMATICS AND SCIENCE EDUCATION AT JUNIOR AND SECONDARY
LEVEL

The Project Consultation Team (hereafter referred to as “the Team”) of Japan International Cooperation Agency (hereafter referred to as “JICA”) headed by Dr. Keiko Mizuno visited the Republic of Indonesia from 22 July to 6 August, 2007 for the purpose of consulting the achievement and underlying issues of the Japanese Technical Cooperation for Strengthening In-service Teacher Training of Mathematics and Science Education at Junior and Secondary Level (hereafter referred to as “the Program”) with the Indonesian authorities concerned.

During its stay in the Republic of Indonesia, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Indonesian authorities as well as Indonesian counterparts of the Program.

As a result of the discussion, both sides agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Jakarta, 6 August 2007



Dr. Keiko Mizuno, Ph.D
Team Leader
Project Consultation Team
Japan International Cooperation Agency
Japan

(Please turn over)



Dr. Fasli Jalal, Ph.D.
Director General
Directorate General of Quality Improvement
of Teachers and Educational Staff
Ministry of National Education
Republic of Indonesia

And with witness hereof

G



Prof. Dr. Ir. Satryo Soemantri Brodjonegoro

Director General

Directorate General of Higher Education

Ministry of National Education

Republic of Indonesia



Prof. Suyanto, Ph.D

Director General

Directorate General of Primary and Secondary Education Management

Ministry of National Education

Republic of Indonesia

THE ATTACHED DOCUMENT

Contents

List of Abbreviations and Acronyms

1. Introduction

1-1. Preface

1-2. Objectives of the Project Consultation

1-3. List of the Project Consultation Team Members

1-4. Schedule of the Project Consultation

1-5. Procedure and Methodology

2. Results of the Project Consultation

2-1. Progress of the Program

2-1-1. Progress of the Inputs

2-1-2. Progress of the Activities

2-2. Achievements of the Program

2-3. Implementation Progress in Each Target District

2-3-1. Sumedang District, West Java Province

2-3-2. Bantul District, Yogyakarta Province

2-3-3. Pasuruan District, East Java Province

2-4. Implementation Process

3. Conclusions and Recommendations

ANNEX 1: Project Design Matrix (Original Version)

ANNEX 2: Project Design Matrix (Revised Version)

ANNEX 3: Progress of the Program

List of Abbreviations and Acronyms

DGHE	Directorate General of Higher Education
DGQITEP	Directorate General of Quality Improvement of Education and Education Personnel
Dinas P&K	Regional, District/City Education & Culture Office
FMIPA	Faculty of Mathematics and Science
FPMIPA	Faculty of Mathematics and Science Education
IKIP	Teacher's College
IPA	Science (Physics, Chemistry and Biology)
IMSTEP	Indonesia Mathematics and Science Teacher Education Project
JCC	Joint Coordinating Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
KKKS	Principal Association
LPMP	Educational Quality Assurance Institution
LPTK	Teacher Training Institution
MGMP	Subject In-Service Teacher Training
MIPA	Mathematics and Science
ODA	Official Development Assistance
PDM	Project Design Matrix
PPP	National In-Service Teacher Training Institute
REDIP	Regional Education Development and Improvement Program
SD	Primary Schools
SISTTEMS	Strengthening In-service Teacher Training of Mathematics and Science Education at Junior and Secondary Level
SMA	Senior Secondary Schools
SMP	Junior Secondary School
SMPN	Public Junior Secondary School
TPK	Regional Development Team
UAN	National Final Examination
UM	State University of Malang
UNY	State University of Yogyakarta
UPI	Indonesia University of Education



1. Introduction

1-1 Preface

The Program was launched on May 2006 in order to 1) revitalize current MGMP for mathematics and science by formulating MGMP into wilayah level and 2) introduce lesson study in MGMP in collaboration with three universities (Indonesia University of Education, State University of Yogyakarta and State University of Malang) which are counterparts of Indonesia Mathematics and Science Teacher Education Project (1998-2003) and its follow-up cooperation project (2003-2005).

The Program will be completed in October 2008, which indicates that the remaining program period is approximately one year and six months. The Japanese Project Consultation Team visits the Republic of Indonesia in order to review progress and achievements of the Program for further improvement.

1-2 Objective of the Project Consultation

The team is dispatched for the following purposes:

- 1) To review and evaluate jointly with the Indonesian authorities concerned, the progress of inputs, activities, and achievements towards the outputs and purpose of the program,
- 2) To clarify the problems and issues to be addressed for the successful implementation of the Program for the remaining period,
- 3) To propose and agree upon the necessary modifications on the original Project Design Matrix (PDM0) with the Indonesian authorities concerned,
- 4) To make suggestions and recommendations for better implementation of the Program in the remaining period based on the results of the mission.

1-3 List of the Project Consultation Team Members

Name	Title
Dr. Keiko Mizuno	<u>Team Leader</u> Senior Advisor (Education) Institute for International Cooperation, JICA
Ms. Takako Koizumi	<u>Basic Education</u> JICA Expert (Primary and Secondary Education), Ministry of National Education of Indonesia
Mr. Jotaro Tateyama	<u>Cooperation Planning</u> Assistant Resident Representative JICA Indonesia Office
Mr. Naoki Nihei	<u>Evaluation Planning</u> Staff, Basic Education Team I Group I (Basic Education) Human Development Department, JICA

hm

9

1-4 Schedule of the Project Consultation

Date	Time	Activities
July. 22 (Sun.)		Arrival in Jakarta
July. 23 (Mon.)	08:30 12:00 15:30	- Meeting with JICA Indonesia Office - Meeting with SISTTEMS Team - Courtesy Call to DGQITEP, MONE
July. 24 (Tue.)	10:00 11:30	-Meeting with UM -Visit to SMA Lab
July. 25 (Wed.)	8:00 10:30 13:30	-Visit to SMPN 2 Pandaan Pasuruan -Visit to SMPN 1 Prigen, Pasuruan and observation of Entire School Lesson Study -Visit to Dinas P&K Pasuruan
July. 26 (Thu.)	8:30 14:00	-Observation of MGMP (Math) in SMP N 2 Nguling, Pasuruan -Visit to LPMP East Java
July. 27 (Fri.)	9:30 13:00	-Visit to Regional Office for Education and Culture, Yogyakarta -Visit to UNY
July. 28 (Sat.)	8:00 10:30	-Observation of MGMP (Science) in Bantul (SMPN3 Imogiri) -Observation of MGMP (Science) in Bantul (SMPN2 Prele)
July. 29 (Sun.)		-Preparation of documents
July. 30 (Mon.)	7:30 10:00	-Visit to Dinas P&K Bantul -Visit to SMPN 1 Bantul
July. 31 (Tue.)	8:30 13:30	-Visit to Dinas P&K West Java -Visit to UPI
August.1 (Wed.)	9:30 14:30	-Observation of MGMP (Math) in Sumedang (SMPN 3 Cisitu) -Visit to Dinas P&K Sumedang
August.2 (Thu.)		-Discussion w/n the team
August. 3 (Fri.)	10:00	-Discussion with DGQITEP, MONE -Discussion w/n the team
August. 4 (Sat.)		-Preparation of documents
August. 5 (Sun.)		-Preparation of documents
August. 6 (Mon.)	09:00 14:00 15:30	-Signing M/M at DGQITEP, MONE -Report to Embassy of Japan -Report to JICA Office

1-5 Procedure and Methodology

In order to fulfill the objectives of the mission stated in 1-2, the following procedure and methodology were taken by the Team:

1. To collect data from the literature/documentation review, interviews with key stakeholders, and direct observations at MGMP activities and targeted schools based on the five evaluation criteria in accordance with the JICA Project Evaluation Guideline (“relevance”, ”effectiveness”, ”efficiency”, “impact”, and

“sustainability”),

2. To analyze and confirm the program status (inputs, activities, achievements, implementation process and impact) based on the collected data,
3. To review on the PDM0 for the necessary modifications based on the analysis,
4. To hold discussions with the Indonesian authorities concerned, in the results of the analysis, the proposed modifications on PDM0, and future measures to be taken by respective stakeholder to address the issues and problems identified in the analysis.

Since the current mission was not planned to conduct a mid-term evaluation, the five evaluation criteria were applied to a limited and possible extent for the data collection and analysis.

A thorough analysis based on the said five criteria will be conducted by the final evaluation team and the conclusion shall be drawn based on the results of such analysis.

Below are definitions of the five evaluation criteria according to the JICA evaluation guideline:

Relevance:

Relevance of the program plan is reviewed in terms of the validity of the project purpose and the overall goal in connection with the development policy of the Government of Indonesia, Japanese government aid policy, needs of the beneficiaries, and by logical consistency of the program plan.

Effectiveness:

Effectiveness is assessed to what extent the Program has achieved its purpose, by clarifying the relationship between the purpose and outputs.

Efficiency

Efficiency of the project implementation is analyzed with emphasis on the relationship between outputs and inputs in terms of timing, quality and quantity of inputs.

Impact

Impact of the Program is assessed in terms of positive/ negative, and intended/unintended influences caused by the Program

Sustainability

Sustainability of the Program is assessed in terms of political, institutional, financial and technical aspects by examining the extent to which the achievements of the Program will be sustained or expanded after the Program's completion.

2. Results of the Project Consultation

The Team recognized the necessity to modify the PDM0 in order to be in line with the actual implementation of the Program, and to make rearrangements on objectively verifiable indicators in PDM0 for the final evaluation of the Program.

Through a series of discussions, both Indonesian and Japanese sides made all topics cleared and agreed on the revision of the original PDM (Original PDM- ANNEX 1, Revised PDM- ANNEX 2).

The major points of revised PDM are follows:

-Added outcome 4 and activities 4-1 to 4-7 to be in line with the actual implementation of Bantul Emergency Program which was conducted to revitalize and rehabilitate the education environment after the considerable damage of the earthquake.

-Inserted 'Wilayah' after the word, MGMP to made them different from originally conducted MGMP in district level

-Changed objectively identifiable indicators by adding concrete measures which can be learned by baseline and endline survey

-Changed input from Japanese side on professional fields of experts

-Changed output 3 and moved activity 2-7 to 3-1 because both the MGMP guideline and monitoring/evaluation guideline should form one set of MGMP mechanism for dissemination to other provinces and districts.

-Switched 'three universities as resource organizations' from precondition to important assumptions because they are described as input by Indonesian side.

2-1. Progress of the Program

The Program has progressed basically as planned except the change of the activity in Bantul District because of the earthquake in the first year (The Progress of the Program- ANNEX 3).

2-1-1. Progress of the Inputs

(1) Inputs from the Indonesian Side

The Indonesian side (Central Government, University (UPI, UNY, and UM) and District Governments) have provided necessary inputs based on PDM. It is particularly worth noting that each of the three universities is allocating a significant number (40-90) of their faculty members as resource persons for the Program. Also remarkable is that DGQITEP-MONE is financing budget for socialization of Lesson Study to non-target provinces.

(2) Inputs from the Japanese Side

The Japanese side has provided necessary inputs based on PDM. The Japanese side also allocated block grant which amounted 3 billion rupiah for the purpose of Bantul Emergency Program (September 2006-March 2007) in addition to the inputs that were originally agreed in PDM.

2-1-2. Progress of the Activities

To date, Project activities based on PDM have been carried out in the three target districts. Those include: inception/socialization meeting, school management training, MGMP dissemination forum, MGMP facilitator training, evaluation workshops, and MGMP activities. Further, entire-school lesson study has just started in the pilot schools in Sumedang and Pasuruan district. Regarding Bantul District that suffered serious damage from the earthquake, the activities were adjusted to introduce Emergency Program. After completing the emergency operation in March 2007, Bantul has come back to the track and is now implementing the activities that were originally planned.

hm

6

2-2 Achievements of the Program

The program proceeds smoothly in general in the middle of the cooperation period. See the table below for details.

Table: Achievements of the Program

Program Purpose /Outputs	Achievements
<p>[Program purpose] The model of MGMP activities (Wilayah) applying Lesson Study for quality improvement of mathematics and science teachers is developed in the target districts.</p>	<p>Although it is yet to be judged by the endline survey, MGMP activities in Pasuruan and Sumedang run smoothly. Bantul tries to catch up the behind caused by the earthquake. But there are some differences in the way Lesson Study is conducted from other 2 provinces.</p>
<p>[Output 1] Education officers in the central government and target districts recognize the effectiveness of the MGMP activities applying Lesson Study and take necessary financial and administrative measures to sustain them.</p>	<p>[MONE] MONE recognizes the Lesson Study as an important tool to improve quality of education and secure budge to disseminate it to nationwide. [Target Provinces] Provincial Education Offices pay attention to results of the Lesson Study and are interested in dissemination province-wide. [Target Districts] Achievement made by Pasuruan and Sumedang in a year is remarkable. They are committed to continuation and dissemination of the Lesson Study. Bantul also enthusiastically follows the two others.</p>
<p>[Output 2] Effective MGMP activities applying Lesson Study are regularly conducted in the target districts.</p>	<p>[Sumedang] They conduct MGMP activates in mathematics on Wednesdays and science on Saturdays, both biweekly, by dividing the district into 8 wilayah. [Pasuruan] They conduct MGMP activities in mathematics on Thursdays and science on Saturdays, both biweekly. Each wilayah jointly conducts development of "lesson plan," observation of lessons, and reflection biweekly. [Bantul] They conduct MGMP activates in mathematics on Thursdays and science on Saturdays by dividing the district into 8 wilayah. Each wilayah is supposed to conduct development of "lesson plan," observation of lessons, and reflection biweekly. But schedule differs from wilayah to wilayah.</p>
<p>[Output 2-1] MGMP facilitators are trained in the target districts.</p>	<p>[Sumedang&Pasuruan] MGMP facilitators' capacities are getting enhanced through trainings for MGMP facilitators and practice. Also, coworkership has been nurtured among them. But in Pasuruan, the prnciple of MGMP management, "All teachers join the MGMP," is not promoted.</p>
<p>[Output 2-2] Principals of the target schools recognize the effectiveness of the MGMP activities applying Lesson Study and take necessary measures to sustain them.</p>	<p>Principals' understanding on the Lesson Study is getting deepened. However, they do not seem to understand enough the effectiveness of reorganize MGMP at wilayah level.</p>
<p>[Output 2-3] Mathematics and science teachers improve the practical teaching competency through the MGMP activities applying Lesson Study.</p>	<p>[Sumedang] Average attendance is 85-90%. They manage to keep highest attendance rate. (report form evaluations workshops) [Pasuruan] Attendace rate has declining. Although it was roughly 80% in the 1st semester, it is roughly 65-75% in the 2nd semester. (information from UM) [Bantul] Although there is no figure available, it is said that all teachers attend the MGMP activities.</p>
<p>[Output 3] The mechanism of the MGMP activities applying Lesson Study is developed.</p>	<p>UPI and UM have made materials on the Lesson Study. Each university establishees their own evaluation/monitoring team and conducts monitoring and evaluation utilizing a tool developed individually. Later, they are planning to develop guidelines on MGMP activities and those on evaluation and monitoring with assistance of Japanese experts.</p>
<p>[Output 4] Under the SISTTEMS Bantul Emergency Program, TPKs and schools propose their own plans and conduct activities to rebuild and improve junior secondary education using SISTTEMS block grant.</p>	<p>1. Block grant was smoothly disbursed and financial reports were correctly made. 2. Activities ran smoothly in general. Although there were some delay of completion, all activities completed in the end of March. Also, as a result of the Bantul Emergency Program, trust between UNY and junior secondary schools were developed. 3. - Rennovation of schools and facilities (77) - Construction of emergency classes (7) - Procurement of educational tools and equipment (71) - Procurement of textbooks (58) - Activities related to traumatic counseling (12) Others - Procurement of computers (59) - Contests (12)</p>

13m

6

2-3. Implementation Progress in Each Target District

2-3-1. Sumedang District, West Java Province

The program activities in Sumedang District are running smoothly. One of the reasons for this smooth implementation is a strong commitment of District Education Office. They issued a letter announcing that all MIPA teachers are exempted from teaching a class on their own expertise on their respective MGMP days. Also, this effort is extended to that district officials ask principals the reason if any teacher is absent from MGMP. Another reason can be attributed to a strong commitment and adequate attitude of UPI facilitators. UPI dispatches 80 facilitators to 8 wilayah (adding 8 more in year 2007), which can be said to build up a strong support structure. Also, speaking of guiding attitude, facilitators keep modesty, honoring teachers' ownership, which is appreciated by teachers in Sumedang. For these reasons, the Lesson Study through wilayah-level MGMP runs smoothly. And they will challenge entire-school Lesson Study later on.

2-3-2. Bantul District, Yogyakarta Province

Compared with the other two target districts, the progress of the Program activities are delayed in Bantul District due to the heavy damage of earthquake which happened in May 2006. The Bantul Emergency Program was set up by utilizing REDIP model for rebuilding the devastated education environment. Block grant was provided to 15 TPKs and 106 schools in the district and many of the grants were utilized for rehabilitation of damaged schools and purchasing equipments. In total 3 billion rupiah (40 million yen) were invested for the Bantul Emergency Program. Even though the contributions to strengthening the existent MGMP was considerably limited, the program played an important role for rebuilding and revitalizing the local education environment.

After the program was completed in March 2007, strong motivation made Bantul district conduct MGMP and other project activities (Facilitator Training and Principal Training) without Japanese experts. The Progress of the program is still behind the other two target districts.

The district government is committed to preparing budget to conduct more facilitator and principal trainings than planned by Japanese experts. The relationship and partnership between District Dinas and UNY became so strong in the Bantul Emergency Program that it is the driving force to make faster implementation of the activities than expected.

2-3-3. Pasuruan District, East Java Province

Program activities in Pasuruan are in progress as scheduled. Wilayah level MGMP sessions applying Lesson Study are periodically conducted and stakeholders at various levels consider Lesson Study as very effective approach to improve teaching and learning process. UM's initiative is a key for the steady progress of the Program, while the commitment of District Education Office also has been increasing.

However, rate of attendance to wilayah level MGMP in this district is reported to be relatively low (65-75%), which is lower than the Project target indicator (80%). Several reasons for this situation are identified during interviews with District Education Officers, principals and teachers. Those include: limited quota (37 participants) by each wilayah due to budget constraints of District Education Office and schools, priority on preparation for UN (for 9th grade teachers), etc. It is recommended that Education District Office as well as

1/10

6

school principals will take financial and administrative measures to ensure all target teachers will attend wilayah MGMP.

2-4. Implementation Process

In Bantul District, the scheduled activities were not conducted on the first year due to the great influence of the earthquakes. Instead, Bantul Emergency Program was planned and implemented for the purpose of rebuilding and revitalizing local education environment. Because of the influence of the earthquake, the project implementation schedule is behind the original plan of operation. In addition to trainings, workshops, the implementation of entire school lesson study which is supposed to start in 2 pilot schools in August 2007 is still under preparation.

It is found that even though MGMP activities were reformulated in the wilayah unit in the Program, all the MIPA teachers do not always attend the MGMP activities. The situation varies from district to district. They attend MGMP activities of their responsible subject (mathematics or science). As for IPA teachers, MGMP activities are divided into different groups (physics and biology) and they also attend the MGMP sessions of their responsible subjects.

From the budgetary point of view to urge teachers to participate in MGMP, budgets are allocated to school by district Dinas and DGQITEP-MONE. But the amount is not sufficient to support all of the MIPA teachers to attend MGMP sessions and the support by school is important factor for all of teachers to participate in MGMP.

It becomes clear that district MGMPs including MIPA are still being conducted and some of the teachers are still attending the both district and wilayah MGMPs. Some teachers are presenting lesson study in district MGMP and this is a positive impact of the Program.

Although the three universities (UPI, UNY and UM) are cooperation partners, not direct counterparts unlike the period of IMSTEP, it is clear that they are playing significant roles for implementation, coordination and management of the Program. Their cooperation and efforts are indispensable for the successful completion of the Program.

3. Conclusions and Recommendations

The model that the program aims to develop is to contribute to the revitalization of MGMP as an effective and equitable means for teachers' professional development, especially for mathematics and science subjects at junior secondary level. In doing so, the following strategy and approaches have been introduced: the reorganization of MGMP at lower levels (Kecamatan or Wilayah level), the application of the Lesson Study in MGMP, and the effective collaboration/partnership among universities (UPI, UNY and UM), district education offices, and the schools for the quality improvement of teaching-learning process in the class room,

Based on the information obtained, the Lesson Study has widely attracted interest at both policy and school levels. At policy level, there is growing evidence that MONE is highly committed to the dissemination of the method to other districts and provinces.

Handwritten signature

It was also acknowledged that the Lesson Study is a potential means for continuing teachers' professional development in the Indonesian context, and experiencing the whole cycle of the Lesson Study has an impact on participating teachers' motivation towards the quality improvement of their respective lessons. However, if the approach is expected to bring the positive impact on students' learning, the key to the success is that the Lesson Study is implemented on the basis of its fundamentals, which include the basic structure (Plan Do See Improvement) and principles (collaboration and mutual learning from the practice of each cycle, focused on the students' learning) and its aim (to achieve continuous improvement of teaching –learning process in the lessons of all the participants).

In view of the above, the Team realized that dissemination of the Lesson Study while maintaining its quality is a major challenge. It was detected that the quality of dissemination even within the targeted districts varies depending on their levels of commitment, accumulation of experiences, and understanding of the fundamentals of the Lesson Study. Ensuring that the already mentioned fundamentals shall be shared, understood, and practiced by all stakeholders in an appropriate and effective manner is a major task for the future.

As for the reorganization of MGMP, sustaining sub-district /Wilayah based MGMP activities in the targeted districts beyond the program period, and expanding such MGMP reorganization further to other districts within the targeted provinces shall require much effort in laying the institutional and financial foundation. Even in the targeted districts, the MGMP in original form at the district level still continues on a parallel with the MGMP activities of the program.

Furthermore, strategies should be explored for its quality assurance mechanism including effective collaboration between the education administration and the universities. Although the counterpart institute responsible for the overall implementation of the program is the respective education offices in targeted districts, it should be noted that the partner universities have been playing a significant role to facilitate overall implementation in both administrative and technical aspects.

On the basis of the findings including the above mentioned facts, the following is a series of recommendations for issues and tasks to be addressed during the remaining cooperation period.

1. Quality Assurance in implementation and dissemination process

The Lesson Study approach has brought opportunities for participating teachers to plan lessons jointly with peer teachers, open and observe the lessons focusing on the students' learning process, and participate in the discussions on the observed class to learn different perspectives and approaches for the quality improvement of teaching-learning process in each participant' classroom.

However, in order for the approach to take root as an effective form of continuing teachers' professional development in Indonesia, the following issues and tasks need to be addressed.

(1) Strengthening the core human resources with technical and professional capacity

The three universities are partners and thus not direct counterparts of the Program; however, they play a decisive role for the quality assurance of training and MGMP activities conducted by the Program. Additionally, the three universities are involved in further dissemination of the MGMP applying the Lesson

Study beyond the scope of the program framework.

On the other hand, the levels of technical and professional capacity of the lecturers involved in the program vary, and not all the personnel have acquired the sufficient level of capacity to ensure the quality of training and the technical follow-up at MGMP Wilayah level.

In this regard, bringing up the capacity level of the core human resources is indispensable for the quality assurance of the Program and the future dissemination, and the technical assistance to be required in this area should be given the highest priority.

The following measures should be taken for optimum utilization of the technical cooperation provided by the program:

- Differentiated strategies for the technical assistance provision based on each university's capacity level assessed by the Expert team. In this regard, the more technical assistance shall be required for UNY due to the delay of the MGMP activities caused by Bantul Emergency Program.
- Specifying the skills required for effective facilitation of the MGMP activities, defining the indicators for the target level, and sharing them with the core human resources of the universities and MGMP teacher facilitators.
- Participation of the universities' core human resources for the MGMP facilitation in the counterpart training in Japan.

(2) Defining and establishing Strategic linkages among training activities

The strategic linkages between training activities in achieving program purpose seem rather weak. To strengthen such linkages, it is requested that the Expert Team shall specify the underlying elements to be covered by each training activity, and shares clearly with the facilitators for respective trainings.

It is also suggested that such elements need to be reflected in the monitoring and evaluation tools for the MGMP activities in order to ensure the effective follow-up and technical support.

(3) Adapting the approach to the Indonesian context and demands

In order to achieve the optimal and expected effects of the program, facilitating the conceptualization of the Lesson Study in the Indonesian context need to be pursued. To this end, linking the Lesson Study to the National Standard for Teachers' Competencies might be effective when guiding the participants in training and MGMP activities to gain better understanding of how the each step of the Lesson Study could help acquire each competency required for improving their lessons. In this regard, it might be worth recommending that the attendance at the MGMP activities shall be included as a part of the portfolio assessment for the teachers' certification to be started this year.

Furthermore, disseminating the Indonesian experiences for good practices in the Lesson Study should be

encouraged for the cultivation of the sense of ownership towards the Lesson Study approach among the Indonesian stakeholders. A pilot school of IMPSTEP such as SMA Lab can be a showcase for the successful Indonesian adaptation of the Lesson Study at the entire school level.

(4) Focusing on quality implementation and dissemination within the targeted provinces

While the Team appreciates the strong initiative and eagerness demonstrated by DGQITEP for the accelerated dissemination, it is recommended that the necessary steps shall be taken for ensuring quality of dissemination. In this regard, the quality implementation shall be emphasized and the efforts and resources shall be concentrated for developing an effective dissemination model within the targeted three provinces during the remaining cooperation period.

2. Strengthening an institutional and financial setup

(1) Advocacy on the effectiveness of reorganization of MGMP at Wilayah level

While the effectiveness of the Lesson Study was widely recognized, the effectiveness of reorganization of the MGMP was not emphasized in any of the interviews conducted to the stakeholders. Therefore, it is recommended that the Japanese Expert team should advocate more on the potential effect of the reorganization of the MGMP on the quality improvement of teachers, and the strategy of the Program needs to be appropriately understood and shared by all the stakeholders to ensure the full participation of the teachers in the MGMP at Wilayah level.

(2) Strengthening financial foundation for the sustainability of the MGMP at Wilayah level

Assurance of the financial foundation is an essential element for the sustainability of the MGMP at Wilayah level. Financial support from the local government is a must to sustain the MGMP. In addition to the financial support provided by the local government and DGQITEP, the provision of school budget to facilitate the teachers' participation in the MGMP is indispensable.

In view of the above, the necessary orientation for the appropriate planning of school budget should be given to the school principals so that the participation of the targeted teachers in the MGMP activities shall be ensured and encouraged by the respective school principals. It is recommended that the school principal training shall be effectively utilized for strengthening such orientation, and the district education offices should give the institutional follow up to make sure that the principals dispatch the targeted teachers to the MGMP activities.

(3) Utilizing MGMP forum as an effective means of socialization

In order to achieve an overall goal of the program by 2015, the targeted provinces need to develop a dissemination strategy to expand the MGMP/Wilayah/Lesson Study model to the other districts within the

province. To this end, it is recommended that the provincial education office shall closely collaborate with the implementation and follow up on the MGMP forum as an effective means of socialization of the model to the other districts.

Furthermore, the Province in collaboration with the targeted district, DGQITEP and the partner universities should develop a dissemination strategy at the province level, utilizing the technical and professional resources and know-how, which have developed by the current program.

(4) Collaborating with LPMP

LPMP of each targeted province have much potential to support the further dissemination in the provinces. Strategic collaboration with LPMP in terms of financial and administrative aspects should be explored. Possible collaboration may include: linking the block grant provided by LPMP to the promotion of the model, and utilization of LPMP facilities for socialization and workshop.

It is also recommended that the LPMP instructors shall participate more actively in the training activities and the MGMP at Wilayah level so that they can gain better understanding of the Lesson Study and its fundamentals. It shall help the LPMP to prepare itself to support the future dissemination process as a technical institute.

3. Mechanism of MGMP activities (guidelines and monitoring)

A package will be developed by the program consisting of the guidelines and tools for the MGMP applying the Lesson Study at Wilayah level, and it shall be an important instrument for Indonesian stakeholders to consolidate the model in the targeted districts as well as to disseminate it further to other districts within and outside of the targeted provinces after the cooperation period.

It is suggested that such materials shall incorporate the vision and fundamentals in practicing the Lesson Study based on the experiences and lessons learned during the program implementation. In this regard, the collaborative work of the Japanese Experts with the universities' faculties is indispensable for jointly reviewing and integrating the materials which have been developed by the universities to date. In addition, the guidelines should include an institutional setup and arrangements among key stakeholders to be required for the implementation and its quality assurance so that the decision makers shall take them into account.

Finally the opportunities to share the developed materials with various stakeholders at different levels should be secured. Especially, it is strongly recommended that the developed package shall be introduced and shared by the other non-partner universities (former IKIP) to facilitate their preparation to take up the technical and professional responsibilities required for the nation-wide dissemination of the MGMP-Lesson Study.

4. Others:

Below are some additional suggestions that might be considered by the Indonesian authorities

for the effective dissemination of the program outputs:

- Broadcasting the experiences of the program on Education Channel for advocacy
- Facilitating the development of Video Material on the Lesson Study approach for wider dissemination among the interested parties.
- Elaborating a nation-wide dissemination strategy with the ownership of MONE/DGQITEP in collaboration with the other key stakeholders including DGHE, the partner universities, and the local government.
- Taking concrete measures for strengthening technical resources of former IKIP for the preparation of the nation-wide dissemination of the Lesson Study

Project Design Matrix (PDM 0)

Project Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p><u>Overall Goal</u></p> <ol style="list-style-type: none"> The model of in-service teacher training primarily through MGMP activities' applying Lesson Study is disseminated in the target provinces as a form of continuing teacher's professional development. The level of student learning ability in mathematics and science is improved in the target districts. 	<ol style="list-style-type: none"> Number of districts and schools practicing the model of MGMP activities in the target provinces Degree of students' interest in and satisfaction toward mathematics and science learning Academic achievements of students in mathematics and science 	<ol style="list-style-type: none"> Records of MGMP activities in the target provinces Questionnaires to students Examinations 	<p>The central government does not change the policies which place importance on MGMP activities applying Lesson Study.</p>
<p><u>Program Purpose</u></p> <p>The model of MGMP activities applying Lesson Study for quality improvement of mathematics and science teachers is developed in the target districts.</p>	<ol style="list-style-type: none"> Scale of the MGMP activities (frequency of meetings, number of participants, cost, etc.) Content of the MGMP activities (facilitators, topics, materials, etc.) Teachers' satisfaction toward MGMP activities 	<ol style="list-style-type: none"> Records of the MGMP activities Records of the MGMP activities Questionnaires to teachers 	<p>The target provinces and districts do not change the policies which place importance on MGMP activities applying Lesson Study.</p>
<p><u>Outputs</u></p> <ol style="list-style-type: none"> Education officers in the central government and target districts recognize the effectiveness of the MGMP activities applying Lesson Study and take necessary financial and administrative measures to sustain them. Effective MGMP activities applying Lesson Study are regularly conducted in the target districts. 	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. Number of participants in an inception and socialization meeting and other workshops, seminars and forums 1-2. Order of priority placed on the MGMP activities in education development plans and budget proposals at the central and district level 	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. Records of the meeting, workshops, seminars and forums 1-2. The Education development plans and budget proposals 	<p>Education officers in the central government and target districts and all the stakeholders continue to be actively involved in this Program.</p>
<ol style="list-style-type: none"> 2-1 MGMP facilitators are trained in the target districts. 2-2 Principals of the target schools recognize the effectiveness of the MGMP activities applying Lesson Study and take necessary measures to sustain them. 	<ol style="list-style-type: none"> 2-1-1. Number of participants in facilitator trainings 2-1-2. Frequency of facilitation and performance of the participants who have become facilitators 2-2-1. Number of participants (principals) in school management trainings 2-2-2. Number of teachers participating with their principals' support in the MGMP activities 	<ol style="list-style-type: none"> 2-1-1. Records and observation of facilitator trainings 2-1-2. Records of the MGMP activities 2-2-1. Records of school management trainings 2-2-2. Records of the MGMP activities and interview with principals 	

¹ In this PDM, "MGMP activities" means "in-service teacher training through MGMP" while in the general usage, "MGMP" usually means / is used as "subject based teacher groups."

<p>2-3 Mathematics and science teachers improve the practical teaching competency through the MGMP activities applying Lesson Study.</p> <p>3. The monitoring and evaluation mechanism of the MGMP activities applying Lesson Study is developed.</p>	<p>and frequency of entire school trainings</p> <p>2-3-1. Number of participants (teachers) in the MGMP activities</p> <p>2-3-2. Number of teachers who have opened their lessons to their colleagues and related people for observation and reflection</p> <p>3. Frequency of monitoring and evaluation conducted by using developed methods and tools</p>	<p>2-3. Records of the MGMP activities</p> <p>3. Records of monitoring and evaluation</p>	
<p><u>Activities</u></p> <p>1-1 Hold an inception and socialization meeting</p> <p>1-2 Hold MGMP forums for dissemination to neighboring districts</p> <p>1-3 Develop dissemination strategies of MGMP activities applying Lesson Study</p> <p>2-1 Analyze the situation of current MGMP activities</p> <p>2-2 Design a detailed plan of the MGMP activities applying Lesson Study</p> <p>2-3 Conduct facilitator trainings</p> <p>2-4 Conduct school management trainings for principals</p> <p>2-5 Practice Lesson Study in the MGMP activities</p> <p>2-6 Practice entire school Lesson Study in some schools on a pilot basis</p> <p>2-7 Compile the experiences into guidelines and materials of the MGMP activities applying Lesson Study</p> <p>3-1 Develop monitoring and evaluation methods and tools of the MGMP activities applying Lesson Study</p> <p>3-2 Conduct monitoring and evaluation on the MGMP activities applying Lesson Study</p> <p>3-3 Hold evaluation workshops</p> <p>3-4 Compile the experiences of monitoring and evaluation into guidelines</p>	<p><u>Inputs</u></p> <p><Indonesian side></p> <ul style="list-style-type: none"> - Central Government: Counterpart personnel Counterpart budget (for workshop, transportation, etc.) Office space for Japanese experts (in MONE) Expenses of university resources persons (DG of Higher Education) - University (UPI, UNY and UM): Resource persons from each university Office space for Japanese experts in each university - District Government (to be selected): Counterpart personnel Office space in each target District Dinas Expenses of the MGMP activities (for workshop, transportation, etc.) <p>N.B.: The above inputs are an elaboration of "III Measures to be taken by the Government of Indonesia," in the Record of Discussions. Therefore, note that (4), (5) under this article, referring to shouldering of expenses for accommodation and official transport and travel of Japanese experts, is not relevant to this particular Program.</p>	<p><u>Inputs</u></p> <p><Japanese side></p> <p>Experts</p> <ul style="list-style-type: none"> - Chief Advisor - Lesson Study - Mathematics Education - Science Education - School Management - Educational Planning and Evaluation <p>Counterpart training in Japan: Approximately 10 people per annum</p> <p>Equipment: audio visual equipment</p> <p>Necessary expenses</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Three universities (UPI, UNY and UM) continue to provide technical support to this Program as resource organizations. - Most of the facilitators continue to work in education in their districts. <p><u>Pre-conditions</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - The Ministry of National Education (MONE) is committed to strengthening the MGMP activities in both budgetary and administrative terms. - There are some district governments which express their commitment to strengthening the MGMP activities in both budgetary and administrative terms in the target provinces.

Mr Q

Project Design Matrix (PDMI)

Program Title: Strengthening In-Service Teacher Training of Mathematics and Science at Junior and Secondary Level
 Program Area: Indonesia (Sumedang District, Bantul District, Pasuruan District)

Duration: 2.5 years

Project Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal</p> <p>1. The model of in-service teacher training (MGMP) applying Lesson Study is disseminated in the target provinces as a form of continuing teacher's professional development.</p> <p>2. The level of student learning ability in mathematics and science is improved in the target districts.</p>	<p>1. 30% of districts/cities in the target provinces organize MGMP activities applying Lesson Study by 2013.</p> <p>2. Ranking of mathematics UAN results of the target district rises within the respective provinces from 2006 to 2011.</p>	<p>1. Records of MGMP activities in the target provinces</p> <p>2. UAN results</p>	<p>The central government does not change the policies which place importance on MGMP activities applying Lesson Study.</p> <p>The provincial governments will be committed to disseminate the Program to other districts within the Province.</p> <p>The LPMP will be involved and have capacity to disseminate the Program.</p> <p>Three universities (UPI, UNY and UM) continue to provide technical support to this Program as resource organizations.</p>
<p>Project Purpose</p> <p>The model of MGMP (Rayon) activities applying Lesson Study for quality improvement of mathematics and science teachers is developed in the target districts.</p>	<p>1. In the target districts the composite score (on the scale of 3-12) for teachers' evaluation on MGMP activities (content, method, and arrangement) is improved from 8.61 at Baseline Survey to 9.06 at Endline Survey.</p> <p>2. In the target districts the composite score (on the scale of 3-15) for teachers' evaluation on usefulness of MGMP activities is improved from 12.97 at Baseline Survey to 13.57 at Endline Survey.</p>	<p>1. Baseline Survey and Endline Survey results</p> <p>2. Baseline Survey and Endline Survey results</p>	<p>The target provinces and districts do not change the policies which place importance on MGMP activities applying Lesson Study.</p>
<p>Outputs</p> <p>1. Education officers in the central government and target districts recognize the effectiveness of the MGMP (Rayon) activities and take necessary financial and administrative measures to sustain them.</p>	<p>1-1. At least one officer (from MONE, Dinas Kab, Dinas Province) attend each training and workshop.</p> <p>1-2-1. Dinas' commitment to implement MGMP (Rayon) activities applying Lesson Study is clearly articulated in the target districts.</p>	<p>1-1. Records of trainings and workshops</p> <p>1-2. Dinas P&K's official statements and budget proposals</p>	<p>Education officers in the central government and target districts and all the stakeholders continue to be actively involved in this Program.</p>

Mr. G

<p>2. Effective MGMP (Rayon) activities are regularly conducted in the target districts.</p> <p>2-1 MGMP facilitators are trained in the target districts.</p> <p>2-2 Principals of the target schools recognize the effectiveness of the MGMP (Rayon) activities and take necessary measures.</p> <p>2-3 Mathematics and science teachers improve the practical teaching competency through the MGMP (Rayon) activities applying Lesson Study.</p>	<p>1-2-2. The target districts' budget for MGMP activities increases from 2006 to 2008 at least by 5%.</p> <p>1-3. MONE's commitment to implement and disseminate MGMP activities applying Lesson Study is clearly articulated.</p> <p>2-1. MGMP (Rayon) -MIPA activities are organized in the target districts twice monthly.</p> <p>2-1-1. More than 85% of MGMP facilitators attend the Facilitator Training continuously.</p> <p>2-2-1. More than 85% of principals in the target schools attend School Management Training continuously.</p> <p>2-2-2. In the target districts the score (on the scale of 3-15) for teachers' assessment on school-based teacher development improves from 7.99 at Baseline Survey to 9.49 at Endline Survey.</p> <p>2-2-3. Principals understand the effectiveness and usefulness of MGMP (Rayon) and actively involve themselves in MGMP (Rayon).</p> <p>2-2-4. Principals adjust the school timetable to enable teachers to attend the MGMP activities.</p> <p>2-2-5. Principals provide transportation allowances for teachers to attend the MGMP activities.</p> <p>2-3-1. In the target districts the percentage of teachers who attend MGMP-MIPA activities increases from 43.2% in 2005/6 to 80% in 2006/7.</p> <p>2-3-2. The average number of MGMP activities that teachers attend increases from 1.7 through MGMP</p>	<p>1-3. MONE-DGQITEP's official statements and newly initiated programs</p> <p>2-1. Records of MGMP activities</p> <p>2-1-1. Records of Facilitator Trainings</p> <p>2-2-1. Records of School Management Trainings</p> <p>2-2-2. Baseline Survey and Endline Survey results</p> <p>2-2-3. Baseline Survey and Endline Survey results</p> <p>2-2-4. Interviews of principals</p> <p>2-2-5. Interviews of principals</p> <p>2-3-1. Baseline Survey and Endline Survey results</p> <p>2-3-2. Baseline Survey and Endline Survey results</p>	
---	---	--	--

Handwritten signature

<p>3. The mechanism of the MGMP activities applying Lesson Study is developed.</p> <p>4. Under the SISTEMS Bantul Emergency Program, TPKs and schools propose their own plans and conduct activities to rebuild and improve junior secondary education using SISTEMS block grant.</p>	<p>District in 2005/6 to 10 through MGMP (Rayon) in 2006/7.</p> <p>2-3-3. More than 20% of teachers of MGMP-MIPA activities conduct an open class and reflection at least once in 2006/7.</p> <p>3-1. MGMP guidelines and materials are developed by the end of the Project.</p> <p>3-2. MGMP Monitoring and Evaluation guidelines and tools are developed by the end of the Project.</p> <p>4-1. Disbursed block grant is correctly spent for the planned activities.</p> <p>4-2. All proposed activities are completed effectively by the end of January 2007.</p> <p>4-3. Number of schools which conducted following activities using the block grant:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Rehabilitation of school buildings/ facilities - Construction of emergency classrooms - Procurement of classroom furniture - Procurement of textbooks/teaching aids - Trauma counseling and similar activities 	<p>2-3-3. Records of MGMP activities</p> <p>3-1. MGMP guidelines and materials</p> <p>3-2. MGMP Monitoring and Evaluation Guidelines</p> <p>4-1. Financial reports from TPKs and schools</p> <p>4-2. Activity reports from TPKs and schools</p> <p>4-3. Proposals and Activity Reports from schools</p>	<p><u>Activities</u></p> <p>1-1 Hold an inception and socialization meeting</p> <p>1-2 Hold MGMP forums for dissemination to neighboring districts</p> <p>1-3 Develop dissemination strategies of MGMP activities applying Lesson Study</p> <p>1-4. Invite LPMP to attend each training and workshop.</p> <p>2-1 Analyze the situation of current MGMP activities</p> <p>2-2 Design a detailed plan of the MGMP</p> <p><u>Inputs</u></p> <p><Indonesian side></p> <p>Central Government:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Counterpart personnel - Counterpart budget (for workshop, transportation, etc.) - Office space for Japanese experts (in MONE) - Expenses of university resources persons (DG of Higher Education) <p>University (UPI, UNY and UM):</p> <p><u>Inputs</u></p> <p><Japanese side></p> <p>Experts</p> <ul style="list-style-type: none"> - Chief Advisor - Regional Education Administration Lesson Study - Mathematics Education - Science Education & School Management - Educational Planning and Evaluation - Education Training Management <p><u>Pre-conditions</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - The Ministry of National Education (MONE) is committed to strengthening the MGMP activities in both budgetary and administrative terms. - The target district governments express their commitment to strengthening the MGMP activities in both budgetary and <p>- Most of the facilitators continue to work in education in their districts.</p>
---	---	---	---

Handwritten signature

<p>activities applying Lesson Study</p> <p>2-3 Conduct facilitator trainings</p> <p>2-4 Conduct school management trainings for principals</p> <p>2-5 Practice Lesson Study in the MGMP activities</p> <p>2-6 Practice entire school Lesson Study in some schools on a pilot basis</p> <p>3-1 Compile the experiences into guidelines and materials of the MGMP activities applying Lesson Study</p> <p>3-2 Develop monitoring and evaluation methods and tools of the MGMP activities applying Lesson Study</p> <p>3-3 Conduct monitoring and evaluation on the MGMP activities applying Lesson Study</p> <p>3-4 Hold evaluation workshops</p> <p>3-5 Compile the experiences of monitoring and evaluation into guidelines</p> <p>4-1 For Bantul District, select and train facilitators</p> <p>4-2 Hold District Inception Meeting</p> <p>4-3 Establish TPKs and School Teams</p> <p>4-4 Each TPK and school submit the proposal to receive block grant</p> <p>4-5 Disburse block grant</p> <p>4-6 Each TPK and school implement proposed activities</p> <p>4-7 Each TPK and school submit activities and financial reports</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Resource persons from each university - Office space for Japanese experts in each university <p>District Government:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Counterpart personnel - Office space in each target District Dinas - Expenses of the MGMP activities (for workshop, transportation, etc.) <p>N.B.: The above inputs are an elaboration of “III Measures to be taken by the Government of Indonesia: 6” in the Record of Discussions. Therefore, note that (4), (5) under this article, referring to shouldering of expenses for accommodation and official transport and travel of Japanese experts, is not relevant to this particular Program.</p>	<p>Counterpart training in Japan:</p> <p>2006 : 10 people</p> <p>2007 : 13 people</p> <p>2008 : 10 people</p> <p>Equipment: audio visual equipment</p> <p>Necessary expenses</p>	<p>administrative terms in the target provinces.</p>
---	--	--	--

N.B.: In this PDM, “MGMP activities” means “in-service teacher training through MGMP” while in the general usage, “MGMP” usually means/is used as “subject based teacher groups.”

Progress of the Program

PDM based Activities (Revised PDM attached with M/M)		Records of Project Activities		
		2006 (Records)	2007 (Records as of July 2007. and Plan)	2008 (plan)
1	1-1 Hold an inception and socialization meeting	[Sumedang, West Java] August 10, 2006. [Pasuruan, East Java] August 23, 2006. [Bantul, Yogyakarta] August 25, 2006.		
	1-2 Hold MGMP forums for dissemination to neighboring districts	[Sumedang, West Java] 1st session : 22 January 2007. (72 participants) [Pasuruan, East Java] 1st session : 30 January 2007 (60 participants) [Bantul, Yogyakarta] No session was conducted.	[Sumedang, West Java] 2nd session: 5 June 2007 (39 participants) 3rd session : December 2007 (plan) [Pasuruan, East Java] 2nd session: 31 May 2007 (48 participants) 3rd session: December 2007 (plan) [Bantul, Yogyakarta] 1st session: December 2007 (plan)	[Sumedang, West Java] 4th session: June 2008 (plan) [Pasuruan, East Java] 4th session: June 2008 (plan) [Bantul, Yogyakarta] 2nd session: June 2008 (plan)
	1-3 Develop dissemination strategies of MGMP activities applying Lesson Study			Describe strategy in final report to disseminate MGMP activities applying Lesson Study through discussions in MGMP Forum and discussion with Provincial Dinas and LPMP.
	1-4 Invite LPMP to attend each training and workshop.	In the three districts person from LPMP attended each training and workshop.	In the three districts person from LPMP attended each training and workshop.	In the three districts person from LPMP attend each training and workshop.
2	2-1 Analyze the situation of current MGMP activities	Researched current situation of the three target districts and make analysis. (The detailed result is described in the chapter 4 of Inception Report.)		
	2-2 Design a detailed plan of the MGMP activities applying Lesson Study	Design overall Implementation plan of during the project period. MGMP implementation plan is designed by each district Dinas supported by three universities. Expert Team and three universities discussed and design the method MGMP activity applying Lesson Study and inform District Dinas of the method of MGMP.		

Progress of the Program

PDM based Activities (Revised PDM attached with M/M)		Records of Project Activities		
	2006 (Records)	2007 (Records as of July 2007. and Plan)	2008 (plan)	
2-3	Conduct facilitator trainings	<p>【Sumedang, West Java】 1st session: 12, 13 September 2006 (51 participants) 2nd session: 4, 5 December 2006 (61 participants) 3rd session: 5, 6 March 2007 (65 participants)</p> <p>【Pasuruan, East Java】 1st session: 18, 19 September 2006 (48 participants) 2nd session: 11, 12 December 2006 (48 participants) 3rd session: 28 February, 1 March 2007 (40 participants)</p> <p>【Bantul, Yogyakarta】 No session was conducted.</p>	<p>【Sumedang, West Java】 4th session: 7, 8 June 2007 (54 participants) 5th session: August 2007 (plan) 6th session: November 2007 (plan) 7th session: February 2008 (plan)</p> <p>【Pasuruan, East Java】 4th session: 28, 29 May 2007 (45 participants) 5th session: August 2007 (plan) 6th session: November 2007 (plan) 7th session: February 2008 (plan)</p> <p>【Bantul, Yogyakarta】 1st session: 4, 5 May 2007 (53 participants) 2nd session: August 2007 (plan) 3rd session: November 2007 (plan) 4th: February 2008 (plan)</p>	<p>【Sumedang, West Java】 8th session: June 2008 (plan) 9th session: August 2008 (plan)</p> <p>【Pasuruan, East Java】 8th session: June 2008 (plan) 9th session: August 2008 (plan)</p> <p>【Bantul, Yogyakarta】 5th session: June 2008 (plan) 6th session: August 2008 (plan)</p>
2-4	Conduct school management trainings for principals	<p>【Sumedang, West Java】 1st session: 11 September 2006 (92 participants) 2nd session: 8 March 2007 (110 participants)</p> <p>【Pasuruan, East Java】 1st session: 22 September 2006 (120 participants) 2nd session: 2 March 2007 (119 participants)</p> <p>【Bantul, Yogyakarta】 No session was conducted.</p>	<p>【Sumedang, West Java】 3rd session: August 2007 (plan) 4rd session: February 2008 (plan)</p> <p>【Pasuruan, East Java】 3rd session: September 2007 (plan) 4rd session: March 2008 (plan)</p> <p>【Bantul, Yogyakarta】 1st session: 3 May 2007 2st session: September 2007 (plan) 3st session: March 2008 (plan)</p>	<p>【Sumedang, West Java】 5th session: July 2008 (plan)</p> <p>【Pasuruan, East Java】 5th session: July 2008 (plan)</p> <p>【Bantul, Yogyakarta】 4th session: July 2008 (plan)</p>
2-5	Practice Lesson Study in the MGMP activities	<p>Twice monthly 【Sumedang, West Java】 (Mathematics) Wednesday, (Science) Saturday</p> <p>【Pasuruan, East Java】 (Mathematics) Thursday, (Science) Saturday</p> <p>【Bantul, Yogyakarta】 (Mathematics) Thursday, (Science) Saturday</p>	<p>Twice monthly 【Sumedang, West Java】 (Mathematics) Wednesday, (Science) Saturday</p> <p>【Pasuruan, East Java】 (Mathematics) Thursday, (Science) Saturday</p> <p>【Bantul, Yogyakarta】 (Mathematics) Thursday, (Science) Saturday</p>	<p>Twice monthly 【Sumedang, West Java】 (Mathematics) Wednesday, (Science) Saturday</p> <p>【Pasuruan, East Java】 (Mathematics) Thursday, (Science) Saturday</p> <p>【Bantul, Yogyakarta】 (Mathematics) Thursday, (Science) Saturday</p>

Progress of the Program

PDM based Activities (Revised PDM attached with M/M)		Records of Project Activities	
		2006 (Records)	2007 (Records as of July 2007, and Plan)
2-6	Practice entire school Lesson Study in some schools on a pilot basis		<p>【Sumedang, West Java】 Entire school Lesson Study is conducted in 2 pilot schools from August 2007.</p> <p>【Pasuruan, East Java】 Entire school Lesson Study is conducted in 2 pilot schools from July 2007.</p> <p>【Bantul, Yogyakarta】 Entire school Lesson Study is going to start in 2 pilot schools from December 2007.</p>
3			
3-1	Compile the experiences into guidelines and materials of the MGMP activities applying Lesson		Finalize MGMP implementation guideline.
3-2	Develop monitoring and evaluation methods and tools of the MGMP activities applying Lesson Study	Monitoring and evaluation teams of three universities developed method and tools and applied on a trial basis (Japanese experts are not involved).	Continued to apply method and tools for monitoring and evaluation (Japanese experts are not involved).
3-3	Conduct monitoring and evaluation on the MGMP activities applying Lesson Study	Three districts and three universities conducted monitoring and evaluation by using tools developed by universities. (not by Expert Team)	Three districts and three universities conducted monitoring and evaluation by using tools developed by universities.
3-4	Hold evaluation workshops	<p>【Sumedang, West Java】 1st session: 6 December 2006 (79 participants)</p> <p>【Pasuruan, East Java】 1st session: 8 December 2006 (50 participants)</p> <p>【Bantul, Yogyakarta】 No session was conducted.</p>	<p>【Sumedang, West Java】 4th session: June 2008 (plan)</p> <p>【Pasuruan, East Java】 4th session: June 2008 (plan)</p> <p>【Bantul, Yogyakarta】 2nd session: June 2008 (plan)</p>
3-5	Compile the experiences of monitoring and evaluation into guidelines		Make monitoring and evaluation guidelines based on the project experiences.

Progress of the Program

PDM based Activities (Revised PDM attached with M/M)		Records of Project Activities	
(Newly added to the revised PDM)		2006 (Records)	2007 (Records as of July 2007, and Plan)
		2006 (plan)	2008 (plan)
4	4-1 Select and train facilitators	In order to implement proposal-based activities smoothly, the JICA Expert Team has made a subcontract with the Faculty of Mathematics and Science, State University of Yogyakarta (FMIPA UNY) to entrust facilitation for the SISTTEMS Bantul Emergency Program. FMIPA UNY has selected one local coordinator and sixteen lecturers and assigned them as the UNY facilitators to work in Bantul. Facilitator Training: 11 and 12 August 2006	
4-2	Hold District Inception Meeting	25, August 2006	
4-3	Establish TPKs and School Teams	15 TPKs were established in the 17 kecamatan of Bantul. In two cases, two kecamatan were combined to form one TPK since the number of junior high schools in them was small. The School Team (Tim Sekolah) was established at all 106 targeted schools. The School Team is made up of existing School Committee (comprised of teachers, parents, and community representatives) plus the school principal.	
4-4	Each TPK and school submit the proposal to receive block grant	15 TPKs and 106 schools submitted proposals.	
4-5	Disburse block grant	A total amount of 3 billion rupiah was disbursed on 25 September 2006 to all 106 schools and 15 TPKs. In the following week, it was confirmed that all schools and TPKs received the activity funds.	
4-6	Each TPK and school implement proposed activities	15 TPKs and 106 schools implemented activities from 1 October 2006 to 31 January 2007 (4 months).	
4-7	Each TPK and school submit activities and financial reports	15 TPKs and 106 schools submitted activity report and financial report until the deadline (10 February)	
	Target locations	(1) Sumedang District, West Java Province (94 schools) (2) Bantul District, Yogyakarta Province (107 schools) (3) Pasuruan District, East Java Province (117 schools)	

N.B. On 27 May 2006, an earthquake hit Yogyakarta and Central Java provinces and left devastating damage to the area. One of the SISTTEMS project sites, Kabupaten Bantul of Yogyakarta province, was the epicenter and severely damaged. In such situation, it was difficult and inappropriate to conduct the Project activities. Instead, The Bantul Emergency Program was planned and conducted from September 2006 to March 2008.

M G

Progress of the Program

PDM based Activities (Revised PDM attached with M/M)		Records of Project Activities	
		2007 (Records as of July 2007, and Plan)	2008 (plan)
Outcome products (Assigned in contract between JICA and Expert Team)	1) Inception Report (Japanese, English, Indonesian) 2) Baseline Survey (Jap. summary, English, 3) Progress Report (Vol. 1) (Japanese, English) 4) MGMP Forum Report (Vol. 1) (Japanese, English, Indonesian) 5) Summary Report (1st Year) (Japanese, English) -Minutes of JCC -Organizational Structure of the Project -List of Targets Schools	1) Progress Report (Vol. 2) (Japanese, English) 2) MGMP Forum Report (Vol. 2) (Japanese, English, Indonesian) 3) Progress Report (Vol. 3) (Japanese, English) 4) MGMP Forum Report (Vol. 3) (Japanese, English, Indonesian) 5) Summary Report (2nd Year) (Japanese, English) -Minutes of ICC 6) Endline Survey (Jap. summary, English, Indonesian)	1) Progress Report (Vol. 4) (Japanese, English) 2) MGMP Forum Report (Vol. 4) (Japanese, English, 3) MGMP Implementation Report (Japanese, English, Indonesian) 4) MGMP Monitoring and Evaluation Report (Japanese, English, 5) Final Report (Japanese, English, Indonesian) 6) Summary Report (3rd Year) (Japanese, English)

2. 評価グリッド

評価項目	大項目	評価範囲	小項目	必要データ	情報源	調査方法		
1. 実績	アウトプットの達成度	中央および対象県の教育行政官が授業研究を活かしたMGMP活動の有効性について認識し、同活動に必要な行政措置をとる	授業研究を活かしたMGMP活動の有効性に関する中央・州・県行政官の認識の程度とアプローチ・手法に関する理解度	中央・州・県各レベルのC/P、研修講師(日本人専門家、大学関係者)、研修記録、業務完了報告書、プロジェクト進捗報告書	中央・州・県各レベルのC/P、研修講師(日本人専門家、大学関係者)、研修記録、業務完了報告書、プロジェクト進捗報告書	インタビュー、資料レビュー		
			各種研修、MGMP活動、フォーラム実施および促進のために必要な予算の確保状況(実施およびモニタリングのための経費、等)	各種研修、MGMP活動、フォーラムへの参加および実施への関与の程度	中央(MONEWHE)、対象(州)、県教育局、各種報告書	中央(MONEWHE)、対象(州)、県教育局、各種報告書	インタビュー、資料レビュー	
			プロジェクトの達成度	プロジェクトが実施する研修(ファンリナーター、学校運営)、MGMP活動(部・パバロ校)、フォーラムの開催実績(内容、回数、参加者の種類、人数)	プロジェクトが実施する研修(ファンリナーター、学校運営)、MGMP活動(部・パバロ校)、フォーラムの開催実績(内容、回数、参加者の種類、人数)	中央・州・県各レベルのC/P、大学、日本人専門家、研修参加教員	研修記録、業務完了報告書、プロジェクト進捗報告書	資料レビュー、インタビュー
			2-1 対象県におけるMGMPファンリナーターの育成	2-1 対象県におけるMGMPファンリナーターの育成 必要措置とは具体的に何を指すのか不明、学校改訂計画、年間活動計画に授業研究活動を含み入れることか? 学校運営研修で行われる具体的な研修内容が学校レベルで実施されているかを確認する必要がある。これまでに2回行われた校長研修での実施の程度を確認	必要措置とは具体的に何を指すのか不明、学校改訂計画、年間活動計画に授業研究活動を含み入れることか? 学校運営研修で行われる具体的な研修内容が学校レベルで実施されているかを確認する必要がある。これまでに2回行われた校長研修での実施の程度を確認	自己評価と研修講師による評価	中央・州・県各レベルのC/P、日本人専門家、研修参加教員	資料レビュー、インタビュー
2. 実施プロセス	モニタリングの実況	PDM、詳細活動に軌道修正が行われたか、それによる影響はあったか、それに対する対応は適切であったか	構築すべきモニタリング、評価メカニズムの整備(誰がいつ、どこで、誰に対して、何を、どんな頻度で行い、何を達成するのか?)	構築すべきモニタリング、評価メカニズムの整備(誰がいつ、どこで、誰に対して、何を、どんな頻度で行い、何を達成するのか?)	各レベルのC/P、日本人専門家、報告書	資料レビュー、インタビュー		
			上記メカニズムを機能させるために必要とされるツール、方法は何か? これに対するプロジェクトによるアウトプットの進捗状況の確認	上記メカニズムを機能させるために必要とされるツール、方法は何か? これに対するプロジェクトによるアウトプットの進捗状況の確認	各レベルのC/P、日本人専門家、報告書	資料レビュー、インタビュー		
			中等教育再建、改善のための活動が各TPKおよび学校から提出され、計画は予定通り実施され、資金は計画された活動に対して正しく使われたか?	中等教育再建、改善のための活動が各TPKおよび学校から提出され、計画は予定通り実施され、資金は計画された活動に対して正しく使われたか?	各レベルのC/P、日本人専門家、報告書	資料レビュー、インタビュー		
			ハントゥルの中等教育再建、改善のための緊急ニーズに対するプロジェクトによるプロポーザル実施支援によりもたらされた具体的な成果の確認(施設面、教育の質的側面、運営面、組織面、など)	ハントゥルの中等教育再建、改善のための緊急ニーズに対するプロジェクトによるプロポーザル実施支援によりもたらされた具体的な成果の確認(施設面、教育の質的側面、運営面、組織面、など)	各レベルのC/P、日本人専門家、報告書	資料レビュー、インタビュー		
3. 妥当性	日本の技術ノウハウの比較優位性・劣位性・能力内容の妥当性	プロジェクトが対象県において、道教科教員の質的向上に資する授業研究を活かした道教科別道教科員研修のモデルが構築されるの達成度合いはどの程度か	投入実績	投入実績表	投入実績表	資料レビュー		
			活動の進捗状況	活動の進捗と対応に行われたか、プロジェクト進捗状況	業務完了報告書、プロジェクト進捗報告書	資料レビュー、インタビュー		
			モニタリングの実況	定期的なモニタリングが行われたか、どういった方法で行われ、その結果はどのようによ利用されたか、外部条件に変化はあったか、それによる影響はあったか、それに対する対応は適切であったか	各県・市(Kabupaten)のImplementation Teamによるモニタリング記録	資料レビュー、インタビュー		
			C/Pの配置(主体性・オーナーシップ)	適正なC/Pが配置されたか、プロジェクト実施への参加は十分であったか	外部条件の変化の責難およびプロジェクトに与えた変化、それに対する対応状況	資料レビュー、インタビュー		

評価項目	大項目	評価範囲	小項目	必要データ	情報源	調査方法	
4.有効性	プロジェクトプロパグンダ目標との関係	プロジェクト目標の達成を阻害する要因はあるか。	プロジェクト目標はプロジェクト目標を達成するために十分であるか。	*対象者の理解者教員はMGMP活動を通して実践的な教授能力を身につけたか？(モデルの有効性)(上述アウトプットの達成状況の確認にてデータ収集)	プロジェクト関係者、プロジェクト事業進捗報告書	資料レビュー、インタビュー	
			アウトプットからプロジェクト目標に至るまでの外部条件は現在においても正しいか。	外部条件と因果関係から確認される計画の論理性	プロジェクト関係者、プロジェクト事業進捗報告書	資料レビュー、インタビュー	
			期待されたアウトプットを得るために予定された活動が適切に実施されたか。	地方分権改革の変化の有無	対象者、市、県、関係者、関係者	プロジェクト進捗報告書等、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー
			アウトプット達成を阻害した要因はあるか。	対象者における教育政策の優先度の変化の有無	関係者、関係者、関係者	プロジェクト進捗報告書等、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー
5.効率性	プロジェクト推進の費用対効果	活動からアウトプットに至るまでの外部条件は現時点でも正しいか。外部条件の影響はあったか。	プロジェクト目標はプロジェクト目標を達成するために十分であるか。	「アウトプットの実績」及び「活動実績」の調査結果	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
			期待されたアウトプットを得るために予定された活動が適切に実施されたか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
			アウトプット達成を阻害した要因はあるか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
			活動からアウトプットに至るまでの外部条件は現時点でも正しいか。外部条件の影響はあったか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
6.インパクト	プロジェクト推進の費用対効果	活動からアウトプットに至るまでの外部条件は現時点でも正しいか。外部条件の影響はあったか。	プロジェクト目標はプロジェクト目標を達成するために十分であるか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
			期待されたアウトプットを得るために予定された活動が適切に実施されたか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
			アウトプット達成を阻害した要因はあるか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
			活動からアウトプットに至るまでの外部条件は現時点でも正しいか。外部条件の影響はあったか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
7.自立発属性	プロジェクト推進の費用対効果	活動からアウトプットに至るまでの外部条件は現時点でも正しいか。外部条件の影響はあったか。	プロジェクト目標はプロジェクト目標を達成するために十分であるか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
			期待されたアウトプットを得るために予定された活動が適切に実施されたか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
			アウトプット達成を阻害した要因はあるか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
			活動からアウトプットに至るまでの外部条件は現時点でも正しいか。外部条件の影響はあったか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
8.軌道修正の必要性	プロジェクト推進の費用対効果	活動からアウトプットに至るまでの外部条件は現時点でも正しいか。外部条件の影響はあったか。	プロジェクト目標はプロジェクト目標を達成するために十分であるか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
			期待されたアウトプットを得るために予定された活動が適切に実施されたか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
			アウトプット達成を阻害した要因はあるか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	
			活動からアウトプットに至るまでの外部条件は現時点でも正しいか。外部条件の影響はあったか。	関係者による関係者、関係者	プロジェクト関係者、プロジェクト関係者	資料レビュー、インタビュー	

3. 面談記録

面談記録 1

日時	2007年7月24日(火)9:30-11:00
訪問先	マラン国立大学学長室
面談者	マラン大学スパルノ学長、ムクタール理数科学部長、イブロヒム氏他
内容	<p>マラン大学関係者に聞き取り調査を実施した。主な内容は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スパルノ学長は2006年12月就任。7月に本邦研修に参加し、管理者として非常に参考になった旨発言。 ○ IMSTEP 時代と異なり、SISTTEMS では専門家の大学に対する援助がスポット的になった。専門家が常時大学に配置されれば、効果的である。毎週1時間半かけて日本人専門家とパスルアン県に出向いている。 ○ 授業研修は将来的に大学の生徒に授業で教えることができる。現在授業研究はカリキュラムに含まれていない。 ○ インドネシアと日本の教員レベルは異なるため、簡単に比較できるものではない。 ○ 県教育局によるプロジェクト参加状況は良いが、県教育局は大学なしには活動はできない。アメリカやフランスなど他ドナーの援助を受けているせいか、非常に忙しく、充分に対応しきれない状況。県教育局がすべき活動を大学が面倒を見ている状況。 ○ DGQITEP ファスリ総局長は3大学学長に対し、本邦研修のフォローアップ会合を持つことを提案している。 ○ 国内に30あるLPMPはファスリ総局長(即ちDGQITEP)のもとにある。東ジャワ州LPMPからマラン大学に対し、授業研究に関する問い合わせが来ている。 ○ DGQITEPからはLPMPの質の向上に対する要請が大学に来ている。 ○ 現在大学の講師は230名で、32名がファシリテーターとなっている。今後はファシリテーターの数を増やしたく考えている。内部の人材育成に力を入れたい。 ○ JICA から県教育局に対してレターを出すなど先方のコミットを引き出すようお願いしたい。 ○ 州教育局とは良好な関係にある。州内38県への授業研究展開に関する議論を行っている。 ○ マラン県はじめ、ジャカルタからもウィラヤ単位でMGMPをしたいなど大学に依頼が来ている。大学の付属業務が拡大し、対応が困難になってきている。これから始まる全校型授業研究には大学から4名かかわるので、負担は大きくなる。 <p style="text-align: right;">以上</p>

面談記録 2

日時	日時:2007年7月24日(火)11:30-14:00
訪問先	SM Lab (マラン大学附属高校)
面談者	出席者:SM Lab リドアン校長、教頭、教員他
内容	<p>SM Lab はIMSTEP フォローアップ時代のパイロット校。マラン大学附属高校関係者に聞き取り調査を実施した。主な内容は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全校型授業研究を年間 60 回近く実施。 ○ 東ジャワ州対象 150 名対象に公開授業を実施。 ○ 12 の旧教員養成大学(IKIP)学部長も見学に来ている。 ○ 3 年間かけて UAN のスコアがマラン県内で 30 位から 4 位まで上昇した。1 科目平均 23 点のところ 28.26 まで上昇。 ○ 学校の方針として教師の質を確保するために、教員の経験を共有したり、議論を行っている。 ○ 県教育局からのリクエストで授業研究を東ジャワ州の MGMP で紹介するなどしている。教員が出張している。これは、県教育局よりも Lab 校の教員のイニシアチブによるところが大きい。最近県教育局からも SMA Lab を訪れるようになった。 ○ 校長会で MPTK(新カリキュラム策定)のブロック grant を利用して、授業研究のワークショップが開かれるようになった他の州でも同様の動きがあるようだが、ここほどとはいえない。 ○ 授業のない教員のみで授業研究を実施。主に 5・6 限に実施。 <p style="text-align: right;">以上</p>

面談記録 3

日時	2007年7月25日(水) 8:30-10:00
訪問先	東ジャワ州パスルアン県 SMP 2 Pandaan
面談者	SMP 2 Pandaan 副校長、教員、DGQITEP リファイ氏、指導主事、マラン大学講師他
内容	<p>マラン大学関係者に聞き取り調査を実施した。主な内容は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スパルノ学長は2006年12月就任。7月に本邦研修に参加し、管理者として非常に参考になった旨発言。 ○ IMSTEP 時代と異なり、SISTEMS では専門家の大学に対する援助がスポット的になった。専門家が常時大学に配置されれば、効果的である。毎週1時間半かけて日本人専門家とパスルアン県に出向いている。 ○ 授業研修は将来的に大学の生徒に授業で教えることができる。現在授業研究はカリキュラムに含まれていない。 ○ インドネシアと日本の教員レベルは異なるため、簡単に比較できるものではない。 ○ 県教育局によるプロジェクト参加状況は良いが、県教育局は大学なしには活動はできない。アメリカやフランスなど他ドナーの援助を受けているせいか、非常に忙しく、充分に対応しきれない状況。県教育局がすべき活動を大学が面倒を見ている状況。 ○ DGQITEP ファスリ総局長は3大学学長に対し、本邦研修のフォローアップ会合を持つことを提案している。 ○ 国内に30あるLPMPはファスリ総局長(即ちDGQITEP)のもとにある。東ジャワ州LPMPからマラン大学に対し、授業研究に関する問い合わせが来ている。 ○ DGQITEPからはLPMPの質の向上に対する要請が大学に来ている。 ○ 現在大学の講師は230名で、32名がファシリテーターとなっている。今後はファシリテーターの数を増やしたく考えている。内部の人材育成に力を入れたい。 ○ JICA から県教育局に対してレターを出すなど先方のコミットを引き出すようお願いしたい。 ○ 州教育局とは良好な関係にある。州内38県への授業研究展開に関する議論を行っている。 ○ マラン県はじめ、ジャカルタからもウィラヤ単位でMGMPをしたいなど大学に依頼が来ている。大学の付属業務が拡大し、対応が困難になってきている。これから始まる全校型授業研究には大学から4名かかわるので、負担は大きくなる。 <p style="text-align: right;">以上</p>

面談記録 4

日時	2007年7月25日(水) 13:30-16:00
訪問先	東ジャワ州パスルアン県教育局
面談者	DGQITEP リファイ氏、県教育局長、職員、指導主事、マラン大学講師他
内容	<p>パスルアン県関係者に聞き取り調査を実施した。主な内容は以下のとおり</p> <p>【県の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣の他県(マラン県、スラバヤ県など)からパスルアンの授業研究に対して問い合わせがきている。 ○ 世銀、韓国、アメリカなど他ドナーからも支援を受けている。世銀は教員の資格に関するプロジェクトを実施。 ○ MGMP-理数科はJICAプロジェクト以前から存在するが、JICAにより活性化された。 ○ マラン大学との連携はよくできており、毎週土曜に会合がある。 ○ 現在約600名の理数科教員がMGMPに参加している。他科目750人対象に県主催の研修を実施する予定。150名×3回(5日間)。リソースパーソンはマラン大学講師、MGMPファシリテーターであり、県が予算を全額負担。 ○ 県教育局は140名のスタッフがり、そのうち13名がJICA-MGMPに関与。内訳は職員3名と指導主事10名。彼らがホームベース8校を中心に管理。 ○ 小学校も授業研究に関心を持っており、佐藤先生が指導したことがある。 <p>【中央】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国民教育省は卒業水準、財政、評価、施設の面に責任を有している。2009年にはKTSPのカリキュラムが施行される。 ○ 3,4年前の地方分権化により、県のコミットを強化している段階。 ○ 授業研究は現場の教員の自立を促進するという意味で、教員にニーズがある。 <p>【モニタリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各指導主事がそれぞれ独自のフォーマットに基づき評価。Plan-do-seeの3段階に分けている。昨年は1-2年生を対象にモニタリングを実施した。 ○ ファシリテーターも各自が自分のフォーマットでモニタリングを実施。特に授業研究の視点から実施。 <p>【LPMP】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員の質を確保するための機関 ○ 県と学校のまとめる役目を負う。国家標準教育を実施。学校と県の能力を把握する。学校訪問し、現場の課題に対して支援を行う。研修活動などを適宜モニターする。 ○ 3大学、3州LPMP、3州、3県は定期的に会合を持っている。 <p style="text-align: right;">以上</p>

面談記録 5

日時	日時：2007年7月26日（木）8：30－11：00
訪問先	東ジャワ州パスルアン県 SMP 2 Nguling
面談者	DGQITEP リファイ氏、県教育局職員、指導主事、SMP 2 Nguling 教頭他
内容	<p>新学期最初の MGMP（数学）を視察した後、県関係者に対して聞き取り調査を行った結果は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 数学4名中2名、理科4名中3名の計5名が MGMP へ参加している。彼らは1, 2年生担当であり、3年生の教員は卒業試験の対策準備を考慮して参加させていない。通常参加者は校長により選定される。 ○ MGMP の旅費は学校が負担。距離によるが、1人5万ルピア。2名枠がある場合は10万ルピア。指定枠以上の教員が追加的に参加する場合は、人数で割り当て金額を折半する。学校からは1名あたり1万ルピアの補助あり。 ○ ホームベース校（ウィラヤ毎に1校）には、MGMP の実施ユニットがある。他校の関係者も実施ユニットに参画している。 ○ DGQITEP からの予算が P4TK を通して県教育局経由でホームベース校へ185万ルピア支給されている。300名に充当する資金だが、実際は600名ほどの参加者があり、県教育局が250人分、ホームベース校が50名分を負担している。 ○ MGMP の参加者は宗教学校の参加により、人数は増加している。パスルアン県 SMP 教員は約600名。全体的に1, 2年生担当教員が優先的参加。 ○ 県の予算は毎年増加している。2005/2006 から2006/2007にかけて25%、同様に2006/2007 から2007/2008にかけても25%増加予定。インドネシアの会計年度は1月から12月。学校は7月から7月。 ○ 県教育局の SISTTEMS ユニットの計13名（職員3名、指導主事10名）。他の用がなければ、原則全員プロジェクト活動に参加している。 ○ 10名中8名は、ホームベース8校をそれぞれ担当し、残りの2名は SMK（職業訓練校）を担当している。 ○ DGQITEP からのブロックグランとは LPMP 経由で県教育局の MGMP へ支給されている。経常予算ではなく、特別予算である。 <p style="text-align: right;">以上</p>

面談記録 6

日時	2007年7月26日(木)14:00-15:30
訪問先	東ジャワ州 LPMP
面談者	先方4名(省略)
内容	<p>東ジャワ州 LPMP にて主に組織・活動面を中心に聞き取り調査を実施した。概要以下のとおり。</p> <p>LPMP 設立：前進組織が1980年代に、DGQITEP 設立後2004年頃、LPMPとしてDGQITEPの傘下機関として再編。</p> <p>組織概要：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動：2007年のRegulation7に基づき、技術部門としてDGQITEPの政策のもと活動を実施。教員の能力育成、教育サービスの監理、情報を整備している。 ○ 学校は県教育局に属しており、LPMPには属さない。 ○ 組織図 <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD A[Head of LPMP] --- B[Section of Empowerment of Education Resource] A --- C[Section of General Affairs] A --- D[Section of Teacher Information] A --- E[Section of Research for Quality of Teacher] </pre> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ マスタートレーナー22名。そのうち理数科教員は7名（生物と物理の教員がSISTTEMSの活動に参加）。 ・ 人事・学術関係を扱うユニットが別に存在。 ○ 活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員研修を実施。毎日平均200名の教員を受け入れている。最大1日約300名の研修受け入れが可能。 ・ 授業研修を州内に紹介するなど、教員の質の確保の責務を負っている。 ・ LPMPの予算で東ジャワ州全県を対象にセミナーを実施予定。240人（80人×3回）の中学校教員対象。参加要件として年齢、科目、以前に授業研究の研修を受けた経験の有無などとし、各県から選考されたものが参加できる。マラン大学講師の協力のもと実施。 ・ 校長研修と視学官研修を実施し、授業研究を紹介している。 ・ 各県と連携の下事業を実施し、フォローアップ活動も行っている。

- 州教育局とは公式な関係はないが、複数協定書 (MOU) をかわしている。LPMP の所長は 3 ヶ月に 1 度、州及び県教育局長と定期会合を持ち、情報を共有する機会がある。
 - 予算
 - LPMP は DGQITEP から教育の質向上のためのブロックグラントを各県の 1 MGMP に対して配賦している。県教育局を通してブロックグラントの申請書 (財務計画、活動計画) を受理し、対象 MGMP を選定する。各 MGMP から活動報告 (活動内容、財務報告) を受けることになっている。
 - 県レベルの MGMP を対象とし、SMP1000 万ルピア、SP (小学校) 1000 万ルピア、SMK2000 万ルピアである。SD ではウィラヤ単位でグラントを供与している。パスルアンの MGMP はプロジェクトにより、ウィラヤ単位で運営されているため、おそらく対象外。
 - パスルアン県以外でも SMP の MGMP をウィラヤ単位で実施する場合の支援は可能かの問いに対し、可能であると回答。ただし、その分費用がかかるので、簡単に導入する県は現れないのではとのこと。
 - 約 5000 人の教員が LPMP のブロックグラントを受給している。
- (追記)
- 昨年度パスルアン県に対しては 8 つの MGMP にブロックグラントを供与。内訳は英語、インドネシア語、社会、倫理、生活、宗教、体育、現地語 (理数科は含まれていない)。

以上

面談記録 7

日時	2007年7月27日(金)9:00—9:15
訪問先	Melia Purosani Hotel Lobby
面談者	斎藤専門家
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ ジョグジャカルタは全体的に足並みがそろっていない。大学の手際の悪さが目立つ。 ○ 5-6月に豊間根氏、滝本氏が現地入りした際に、大学と活動について調整したが、フォローができていない状況。今週佐藤雅彰先生も現地入り。 ○ 教員より大学講師の能力が落ちる。UNYはIMSTEP時代から他大学に比べ能力は低い。全体的に大学のまとまりがない。 ○ ジョグジャカルタの文化と大学の誇りが高々として残る。 ○ 帰国研修員の学校では独自に授業研究を始めているところもある。全校型は早くてパイロット校選考が12月、実施が2月になる見込み。 <p style="text-align: right;">以上</p>

面談記録 8

日時	2007年7月27日(金) 9:30-11:30
訪問先	ジョグジャカルタ州教育局
面談者	州教育局、県教育局、NUY
内容	<p>【全般的事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ジョグジャカルタ州は4県、1市、78郡からなる。17郡がプロジェクトの対象。 ○ 先方はバントウル県の経験を他県へ普及させる意向を有する。JICA と MOU を結んで他県普及を行いたい旨発言。 <p>【震災緊急プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ MGMP を通して生徒の数学・理科の能力向上に貢献した。 ○ 全ての配布金事業についてモニタリングを実施した。行政的にはまったく問題なかった。 ○ 区をいくつかに分け、県教育局と調整して研修を実施した。1エリア毎にファシリテーターを配置。金額は大きいものではなかったが、地震のダメージを受けた後であり、効果的であった。総額30億ルピア(4000万円)。 <p>【今年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業研究は2007年4月から開始。8つのウィラヤに分割。ソーシャリゼーションに県教育局と理数科教員全員が参加した。2日間(1日目理科、2日目数学)のプログラムで授業研究を紹介。校長研修も実施。 ○ この地域に文化に結びついた形での授業研究が望まれる。ジョグジャ地域の教員は公開授業に慣れていない。 ○ 授業研究は他の活動に影響を与えないように実施。数学は木曜、理科は土曜に自由な時間があり、その時間を活用している。 ○ 財政面では、教師の旅費を学校と県が負担している。リソースパーソンの費用はDGQITEPが負担。 ○ 他県からもUNYに授業研究の照会が来ており、その度に説明を行っている。 ○ LPMPはソーシャリゼーションプログラムを実施している。(LPMPのある中央ジャワ、南東スラウェシ、カリマンタン、ジョグジャカルタ) ○ 全校型授業に関しても、中央ジャワのオノギリ、マグランなどからも照会あり。UNYはリクエストされると、各地の学校を訪問して、全校型授業研究をモニターし、適宜アドバイスを行う。 ○ IMSTEP時代のパイロット校は2001年から授業研究を知っていたので、バントウルの震災プログラムでも授業研究が実施された。 ○ バントウル震災プログラムの最終会合の際に、全ての関係者がプログラム内容に満足したものと表明された。 ○ バントウル県8つウィラヤ各平均数学30名、理解30名の教員がいる。総数は600名。MGMPの出席は60%ほど。 <p>【県教育局の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ (出席率が60%について) 問題点は年齢が40歳を越えている教員は新しいことに関心がなかったりする。こういった教員にはレターを出すなり対応が必要。

- 文化的な影響も考えられる。授業案作成の回は、公開授業のモデルに選ばれることを避けたいがために、参加せず、公開授業だけ参加する人もいる。

【校長の影響】

- 校長の影響をモニターすべきだが、現時点では示すことはできない。国民教育省(モニタリング・評価)チームが今後取り掛かる予定。

【役割分担】

- 州は全体の活動計画(ターゲット県の選定など)策定。全体のモニタリング。州の予算で2008年度授業研究の他県への展開を考えており、現在承認のプロセス段階。州議会の承認を待っている。
- 月1回県教育局と大学は定期会合を持っている。
- 県は計画、調整役を担っている。

【リファイ氏発言】

- 大学教員も忙しく、なかなか授業研究のリソースとなる人材を増加させることは難しい。LPMPの教員を養成して、面的な展開を図るのはどうか。現在LPMPからSISTTEMSへの活動は2名しか参加していない。

以上

面談記録 9

日時	2007年7月27日(金)13:00-15:00
訪問先	ジョグジャカルタ大学理数科学部長室
面談者	UNY関係者、リファイ氏
内容	<p>UNY関係者に聞き取り調査を行った結果、主な内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急プログラムは成功に終わった。 ○ UNYでは校内授業研究を実施している。 ○ マラン大学に招かれ、UMに対し、授業研究について発表した。今後はバンドンでも発表する予定(アリスワン副学長)。3大学が授業研究のリソースセンターになるよう努力している。 ○ (モニタリングについて) Plan-do-seeの各段階で評価を実施。特にプロジェクト専門家のインプットなしに大学独自に評価シートを作成中。ベースライン調査時のデータを利用して、評価・モニタリングシートを作成している。ドラフト終了次第、JICA専門家チームと相談したい。現在他2大学からも情報収集中。状況が違うため、まったく同じものは使用できないと考える。(Yosaphat氏) ○ ホームベース毎にMGMP参加者等の記録を管理している。ホームベース校から大学及び県に資料のコピーが配布され、これに基づき、大学と県は月1回の定期会合で協議を行っている。 ○ 校長研修及びファシリテーター研修は専門家がない際に、独力で実施した。ホームベース校毎に4名のファシリテーターがおり、計32名。 ○ F理数科の講師は178名。80名が授業研究をこれまで実施しており、プロジェクトにかかわるのはこのうち32名。→本来のプロジェクト開始1年後あたりの節目で、大学講師陣の能力確認を専門家により実施してはどうか(水野専門員)。 ○ ジョグジャのP4TK(ジョグジャは数学を専門としている)とのかかわりについて、県が直接かかわりを持っている。現職教員対象の研修を行っているが、授業研究は実施していない。県に対してプロジェクト活動に関係者を見学に送ってよいか問い合わせがある。 ○ UNYはLPMP(スマラン、ジョグジャや中央ジャワ)の要請で、LPMPに対して研修を実施している。その後、LPMPが理数科以外の科目の教師にも研修を実施している。 ○ 2006以後、3大学は全国の優秀教員及びマスタートレーナー755名(3回、1大学1回)向けに授業研究セミナーをLPMPで実施している。地域ベースでの授業研究の普及を促進させ、全校型授業研究を全国で実施することを目標にしている。DGQITEPは全国展開に向けてLPMPを活用したい意向。755名に対してはフォローアップを実施。各県で授業研究導入の動きがある。ボルネオや東部インドネシアから研修の依頼がある。 ○ UNYではmicro-teachingという形で授業研究の授業を実施している例があるが、正式なカリキュラムとはなっていない。 ○ 12旧教員養成大学(IKIP)間の会合が定期的であり、将来的に3大学から残り9の大学のリソース拡充を狙っている。

- 授業研究は国の政策として全国展開される方向。DGQITEP ファスリ総局長はブロックグラントを MGMP に対して供与する方針。県に対しては資金を出すようプッシュするのではなく、中央から授業研究の有効性を示すことが大事。(リファイ氏)
- プロジェクト対象県のうちスメダン県に関してはかなり状況が異なる。関係者の協力体制が強力であり、県が財政的に 100%バックアップしている。一方、バントウル県では、地震の影響があり、県の予算は、学校の修復、備品整備、トラウマカウンセリングなどに当てられており、授業研究に対しては後手である。一方、緊急支援プログラムで授業研究を導入した学校もあることから関係者は勇気付けられている。

以上

面談記録 10

日時	2007年7月28日(土) 8:00-10:00							
訪問先	SMP 3 Imogiri							
面談者	SMP 3 Imogiri 関係者							
内容	<p>SMP 3 Imogiri にて MGMP (理科) の視察を行った。内容以下のとおり。</p> <p>【当日の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①開会挨拶、②校長挨拶、③公開授業、④リフレクション、⑤閉会 ・ 参加者数は30名程度。 <p>【公開授業の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒を4名ずつ8グループに分かれて授業。当日は物理のMGMPで測量をテーマにしたもの。ものさし、ストップウォッチ、天秤などを利用して手元にあるものを自由に測るというもの。 ・ 生徒はワークシートに測ったものの記録を記入する。 <p>【関係者への聞き取り】</p> <p>スベルカ校長、バントウル県教育局トト氏、DGQITEP リファイ氏に聞き取りを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ バントウルでは2つの郡で1つのホームベース校(だいたい15校を束ねる)を設置している。 ○ 当日の参加者は理科教員47名いる中で、約30名にとどまる理由は、1) ちょうど楽器の始まりに当たること、2) 物理のMGMPなので、他科目(生物)の教師がきていないこと、である。 ○ 2007年からKTSPというカリキュラムが導入され、化学(入門)は物理の教師が担当している。 ○ カリキュラムについて <table border="1" data-bbox="328 1256 1410 1520"> <tr> <td>1994年</td> <td>カリキュラム改定、パイロット的に数校のみ試行</td> </tr> <tr> <td>2004年</td> <td>地方分権化の流れに合わせて、カリキュラム改定</td> </tr> <tr> <td>2006年</td> <td>2004年カリキュラムを改定。KTSPへ名称変更。学校が各自でカリキュラムを定める。2009年に全面展開するため、現在ソーシャライゼーションを行っている最中。モニターチームをLPMP、県教育局、Senior teacher、University関係者から構成。</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ 上記カリキュラム改定の動きに、コミュニティーは大きな関心を寄せていないのが現状。 ○ 全国統一試験(UAN)は、各州から選抜された教員と国民教育省のNational Education Standard DepartmentがCenter of Education Evaluationにて作成。 <p>同日10:30-12:00にかけて、SMP N 2 PreleにてMGMP(物理)のリフレクションを視察。佐藤専門家、西谷専門家による指導が行われていた。</p>		1994年	カリキュラム改定、パイロット的に数校のみ試行	2004年	地方分権化の流れに合わせて、カリキュラム改定	2006年	2004年カリキュラムを改定。KTSPへ名称変更。学校が各自でカリキュラムを定める。2009年に全面展開するため、現在ソーシャライゼーションを行っている最中。モニターチームをLPMP、県教育局、Senior teacher、University関係者から構成。
1994年	カリキュラム改定、パイロット的に数校のみ試行							
2004年	地方分権化の流れに合わせて、カリキュラム改定							
2006年	2004年カリキュラムを改定。KTSPへ名称変更。学校が各自でカリキュラムを定める。2009年に全面展開するため、現在ソーシャライゼーションを行っている最中。モニターチームをLPMP、県教育局、Senior teacher、University関係者から構成。							
	以上							

面談記録 11

日時	2007年7月30日(月) 7:30-9:30
訪問先	バントウル県教育局
面談者	バントウル県教育局 Sudarman 局長、Mr. Totok, Ms. Partini, DGQITEP Mr. Rifai、UNY Mr. Yusaphat
内容	<p>バントウル県教育局関係者に聞き取り調査を実施した。先方による主な内容は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地震の被害にあいながらも昨年は良い成績で卒業した学生も輩出できた。教育改善のために、今後も改善を続けなければならない。(冒頭局長) ○ バントウル県は教育システムを改善しており、1クラス40名から36名としている。将来的には1クラス30名、20名としたい。 ○ 教員が授業研究に参加することを喜ばしく思う。より参加率を上げるために、モチベーションをあげて努力しなければならない。 ○ 今年度はすでに活動を開始しており、8つのホームベース校を拠点に活動している。既に全校型授業研究を開始している学校もある。 ○ 地震のため、事業進捗が遅れており、2009年までに JICA からの援助がほしい。教育予算が学校の校舎修復に投資されているため、リフレクション用のビデオ撮影機材の購入が十分にできていない状況。 ○ 地震プログラムでは、15TPK と 106校に対し、30億ルピア(4000万円)が投入され、多くは校舎のリハビリや備品の購入に充てられた。 ○ 17ある TPK を 15の TPK (2つの郡は小さいため併合)として、震災プログラムでは機能したが、プログラム終了後は特別な機能は果たしていない。TPK の長は校長であるため、校長会(MKKN)の活動と結びついて、学校経営者研修を行っている。 ○ (震災プログラムについて他セクター・他スキームの状況) JICS がスポーツ科学の先生を派遣し、7校にて生徒のトラウマカウンセリングを実施。JICA の無償により7つの SMP の校舎修復が行われた。日本大使館が BAPPENAS と共同して4つの health center で保健プログラムを実施。(→いずれも SISTTEMS とは連携していない模様) ○ UNY のファシリテーターを中心に、授業研究(Plan-do-see)のソーシャリゼーションを開始した。イモギリ校はじめ数校では、ビデオを機材を利用した授業研究が実施されていた。 ○ TPK のファシリテーターは MGMP のファシリテーターとしても活躍している。 ○ (体制面) 県教育局は Sudarman を長に Totok と Partini で SISTTEMS を担当している。UNY の Yosaphat と定期的に連絡調整を行っている。ホームベース校の MGMP (木・土)には、必ず誰か参加している。現在指導主事はこれまでの3名に最近4名が追加で配置された。彼らの担当科目は歴史、インドネシア語、体育、などで理数科はいない。この7名を各ホームベースに今後割り当てる意向。 ○ DGQITEP からディナス経由で学校にブロックグラントが供与されている。 ○ ウィラヤ単位の MGMP はプロジェクト終了後も続ける方向。SISTTEMS の MGMP が各科目月2回(数学・木曜、理科・土曜)に対し、従来の県単位の MGMP は毎週1回、全

科目実施。県レベルの MGMP は授業案作成に特化したもの。

- 県全体の理数科教員は 619 名。宗教学校からの参加者も増え増加傾向にある。APBD という学校に対する予算割り当てにより県は支援を行っている。
- (LPMP との関係)LPMP は 1 県 1 科目の MGMP あたり 1000 万ルピアのグラントを供与。他科目の授業研究ソーシャリゼーションを実施。LPMP は予算と場所、UNY は人材を提供してタイアップして活動している。LPMP は他県からの授業研究に関する照会に対応している。

同日 10:00-10:30 SMPN 1 Bantul にて MGMP (数学) を視察。生徒は 4 名×10 グループ分かれて図形の問題を解いていた。観察している教師の中には後ろの座席に座ったまま、十分に活動を観察しないものもいた。

7 月 30 日 (月) 10:30-12:00 SMPN1Bantul にて校長に聞き取り調査を実施した。(県教育局 Ms. Partini) も同席。主な内容以下のとおり。

- 校長 Bambang Edy Sulistiyana 氏は本日校長に就任したばかり。以前は同じバントゥル県の SMPN1Sradakan にて校長として勤務。国際交流基金のプログラムで訪日経験を有し、日本で学校訪問を行い授業研究も理解している。以前の学校では既に ES 授業研究を実施。以下前勤務校の情報を聴取。
- 授業研究については、学校を変える力を持っている。生徒、教員、学校のすべてを変えるモチベーションとなっている。以前は他の教員の授業を見ることはタブー視されていたが、今では徐々に変わりつつある。授業は校長により視察されるものであったが、今では同僚が公平な視点で観察して互いの学びの場となっている。文書化や評価方法について課題があると考える。
- UAN はこれまで数学、インドネシア語、数学だけであったが、来年から理科も対称科目に含まれる。
- コミュニティーはプロジェクト終了後も MGMP を続けることを望んでいる。
- 教員数は 35 人で理数科は数学 5 名、理科 4 名の計 9 名。プロジェクト開始前の県 MGMP も現在のウィラヤ単位の MGMP も出席率は 100%。
- 現在は従来の県 MGMP も JICA-MGMP も両方参加している。内容面では大きな違いはない。頻度の問題。JICA-MGMP は理数科に特化している点と ES 授業研究もある点が異なる。将来的には双方が combine する可能性もある。
- 各ホームベースには 4 名のファシリテーターが配置されている。8 月には 2 回目のファシリテーター研修が実施される予定。年末までにファシリテーター研修 6 回 (プロジェクトでは 3 回)、校長研修 3 回 (プロジェクトでは 2 回) 予定しており、それぞれプロジェクトにプラスして実施する 3 回と 1 回分については県で予算を確保して実施するものである。現プロジェクトは有効であるため、できる限り専門家の協力も得て実施したい。(県教育局 Ms. Partini)
- バントウル県では、授業研究のインパクトについてのセミナー及び学校に起こった変化についてのセミナーを今後県により計画されている。(県教育局 Ms. Partini)

以上

面談記録 12

日時	2007年7月31日(火) 8:30-10:00
訪問先	西ジャワ州教育局
面談者	西ジャワ州教育局関係者3名
内容	<p>州教育局を訪問し、先方と意見交換を行った。内容以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プロジェクト終了後、将来的には西ジャワ州全県で普及させて、プロジェクトのインパクトを確かなものにした。JICAのプロジェクトによるアイデアに感謝する。 ○ JICAプロジェクトの影響と必ずしも言えるわけではないが、これまで中下位であったスメダン県はUANの結果が良くなっている。(その後得たUANの平均スコアは2005年 22.68、2006年 23.7、2007年 23.43) ○ 2007年スメダン県は全国でもUANの優秀なグループに入っている。西ジャワ州は卒業レベルが全国で1番であり、州内でスメダン県はトップ10に入る。 ○ 西ジャワ州の教育政策は3本柱から成り、①教育のアクセス向上、②教育の質の改善、③教育経営の改善である。JICAプロジェクトは①と②に貢献している。 ○ 2校でES授業研究が開始されるが、パイロット校の選定に関しては、他校に与える影響は大きかった。8ウィラヤから1校ずつノミネートされ、校長に対し、面接を行った。どの校長も学校を改善したい意欲にあふれており、面接の時点ですべての学校がパイロット校に選ばれなくてもES授業研究を実施する体制にあった。 ○ REDIP-Gの対象地域であるボゴル県とブカシ県では、配賦金でスメダンの支援を受けつつ授業研究を導入する動きがある。 ○ 学校への活動資金は①国民教育省からの学校配賦金(BOS)、②州からの予算、③県からの予算、④父兄からの寄付金の4つがある。 ○ 州としてスメダン県を西ジャワの授業研究センターとして機能させたい意向がある。近隣のマジランカ県では、スメダンのようウィラヤ単位でMGMP普及を行う考えがある。 ○ 州県教育局には、附属機関のTeacher Training Center(LPMPではない)があり、将来的にはUPIから支援を得てここを拠点に授業研究を普及させたい考えもある。 <p style="text-align: right;">以上</p>

面談記録 13

日時	2007年7月30日(火) 10:30-13:15
訪問先	バンドン第12中学校 (SMPN12 Bandung)
面談者	バンドン第12中学校 校長及び教員
内容	<p>バンドン県の中学校を訪問し、授業観察及び学校関係者との意見交換を行った。なお、IMSTEP時代のパイロット校は高校6つ、中学6つあり、バンドン第12はこのうちの1つにあたる。10:30-11:30の間、数学の授業を視察。その後、関係者聞き取りの内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内で理数科の授業研究を実施し、今後他教科でも実施すべく準備している。 ○ 授業研究により、UANのスコアが上昇しており、プラスの影響を受けている。 ○ バンドン第12中学校は全国に10つあるナショナル・スタンダード・スクールの1つで西ジャワで初めて認定された。昨年1200名の入学申請があり、360名入学。 ○ 学校の施設がもっとよければ、教育がより改善されると考える。 ○ 毎学期校内研修を実施している。理数科教員が授業研究についてのソーシャリゼーションを実施。しかし、他科目の教員から必ずしも支持されているわけではない。毎学期3回授業研究を実施。実施の前にはUPIからの支援を受け、planを行う。公開授業ではリフレクションも行っている。 ○ 校内研修は他校からも見学が来ている。公式にレターを送付し、招待する。又、話を聞きつけた教員から電話の問い合わせもきている。 ○ 理数科教員は15名(数学8、理科7)で、そのうちKota-MGMPに参加しているのは2名のみ。バンドン市(インドネシアで大きい市はKotaと呼ばれる。バンドンはバンドン市とバンドン県に分かれている)は以前はウィラヤ単位でMGMPがあったが、今は市政府の政策により市単位のMGMPのみ実施。各学校に人数割り当てがあり、学校で参加教員を選定する。参加者はMGMP参加後、学校にて情報の共有を行う。毎月3週目の土曜日に実施。バンドン県教育局は9月に授業研究のソーシャリゼーションを実施予定。 ○ (調査団が授業を見学した教員の話) 最初他の教師の前で、授業を公開するのは非常にナーバスになったり緊張した。授業研究のソーシャリゼーションをしても何もしない人からの反応は良くなく大変である。UPIから支援を受けたことが非常に大きい。 <p style="text-align: right;">以上</p>

面談記録 14

日時	2007年7月31日(火) 13:30-17:30
訪問先	インドネシア教育大学理数科学部
面談者	インドネシア教育大学理数科学部長、副学部長
内容	<p>今回調査の結果DGQITEPと合意するミニッツに添付するPDMについてIMSTEP時代にPDMを経験してきているUPI関係者と意見交換を行った。その後、聞き取り調査を実施。主な内容以下のとおり。(PDMの議論は省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県教育局のコミットメントは非常に強い。MGMP(理科は隔週水、数学は隔週土)について、県は校長に全教員が参加するように働きかけを行っている。 ○ 県と大学とのコミュニケーションは良好である。 ○ ファシリテーター研修、校長研修、モニタリング・評価ワークショップのいずれにも県から必ず出席している。ファシリテーター研修を実施する際は、県と大学で必ず事前の会議を行っている。 ○ 州は活動をサポートするといいいながらも、実際の行動は少ない。研修にもほとんど来ていない。 ○ LPMPは能力が徐々に改善されつつある。研修には毎回1名は参加している。LPMPから行う授業研究のワークショップにUPIが招かれて、LPMPのTOTに研修している。 ○ UPIからは80名プロジェクトに人員を動員している。90%は必ず月2回のMGMPのため、スメダンに通っている。80名は8つのウィラヤに各10名ずつグループ分けされている。80名のうち40%がIMSTEP時代の人材、60%は新しい人材。今回全校型のために2校計8名貼り付けるにあたり、8名増員した。 ○ 大学スタッフの能力向上のため、今後も日本人専門家の継続的な支援がほしい。 ○ スタッフの授業研究についての質は向上している。大学内で学部スタッフ向けのワークショップを開催する予定。 ○ IMSTEP時代に比べ3大学で集まる機会が減った。以前は月1回の定例会合があった。進捗状況や情報を共有する機会を失ってしまった。DGQITEPプラナタ局長は月1回会合を実施すると言ったが、実行に移されていない。 ○ 11月2,3日に12大学があつまる会合があり、専門家にも出席いただきたい。 <p style="text-align: right;">以上</p>

面談記録 15

記録：二瓶直樹

日時	2007年8月1日(水) 9:00-12:30
訪問先	チンツ第3中学校 (SMP N 3 Cisitu)
面談者	チンツ第3中学校関係者
内容	<p>○ スメダン県 SMP N 3 Cisitu において MGMP (数学) を視察した。3年生対象の授業研究であり、80分授業の後、リフレクションが実施された。生徒は4名8グループに分かれて作業。図形の対象に関するテーマで、冒頭先生が概念を説明した後、ワークシートの問題をグループ形式で解答した。授業観察する教師の側も3名1グループで指定された生徒のグループを観察した。リフレクションにて各グループの教員1名が代表してコメントを行った。</p> <p>○ 10:40-12:30の間、校長を司会にリフレクションを実施。各生徒のグループについて、グループに張り付いて観察した教員がコメントを行った。コメントの印象として、モデル教師に対して敬意を払った上で、コメントがなされた。内容を理解していない生徒についての言及、グループ内でわかる子が一人で進めていたこと、グループ内の共同学習の有無などについてコメントが行われた。</p> <p>○ 当日は理科の教員も参加しており、リフレクションで進んでコメントした。他校の校長も参加していた。</p> <p>○ 指導主事、大学講師(3名)それぞれからも有意義なコメントでリフレクションが締めくくられた。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

面談記録 16

日時	2007年8月1日(水) 14:30-16:15
訪問先	スメダン県教育局
面談者	スメダン県教育局4名、UPI関係者 2名
内容	<p>スメダン県教育局関係者に聞き取り調査を行った。主な内容以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ (MGMPの効用について、UPIからの情報) 教員のモチベーション向上、自己研鑽のツール、良きモデル教員の形成、3つの点で大きな意味を持つ。大学としてはたまに1週間ほどMGMPを休むことを考えるが、教員からの要望で休みなくMGMPを実施している状況。 ○ 授業研究のモデル教員はMGMPの授業案作成のセッションで決めている。通常1サイクルは2回の授業案作成、3回の公開授業で構成している。 ○ スメダン県の対象は89校だが、私立宗教学校が加わり、94校となっている。 ○ 県教育局は指導主事、校長、教員を動員させる役割を有している。県教育局とUPIの連携は計画-実施-モニターの段階で行われている。 ○ 授業研究は理数科だけでなく、今後他教科にも広げる予定。8月7日に英語、インドネシア語、社会に広げるためのソーシャリゼーションを行う予定。 ○ ウィラヤ単位のMGMPは効果的であり、2008年にプロジェクト終了後も存続させるつもり。またMGMPを他科目でも実施する。SMAレベルにも広げたいと考える。(局長発言) ○ 既存の県MGMPをウィラヤMGMPと同様、うまくコーディネーションを行い再活性化させたい。 ○ MGMPフォーラムにより他県へのソーシャリゼーションを積極的に行いたい。 ○ 州に対しては州内他県に授業研究を広げる際に、要請があれば、UPIと県が共同で説明に赴くつもりである。全国展開に関しても可能な限り協力する。 ○ 今日から始まる全校型授業研究(ES授業研究)についてパイロット校にはカメラが1台しかないため、実施体制を充実するために機材の追加が必要。県教育局では対応できない。 ○ 12名指導主事がいるが、数学は3名のみで教科対応力が低いことが課題。→調査団から科目の内容についてはUPIの専門性でサポートすればよく、指導主事は授業を観察する視点で指導できればよいと発言。 ○ 予算については、県からはAPBSが11000万ルピア学校へ支給。学校からも何十億ルピアが教員の交通費などに支給している。 ○ (調査団への依頼) DGQITEPに対して、テレビの教育チャンネルで授業研究を取り上げて宣伝することの提案を調査団に依頼。スメダン県の取り組みをビデオで収録して放送したい意向。(→調査団からは他県でも授業研究を実施するためのガイドラインをプロジェクトで作成するので、そこにもDVDのような教材を作成することも可能と発言) <p style="text-align: right;">以上</p>

面談記録 17

日時	2007年8月3日(金) 10:00-11:50
訪問先	国民教育省教職員質改善総局
面談者	プラナタ局長、リファイ氏
内容	<p>8月6日に合意予定のミニッツ内容につき、先方と協議を行った。内容に関してはいくつかのコメントを頂いた上で、合意した。DGQITEPから事業に関連する情報を提供された。主な内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ DGQITEPは3大学平等に年間8億ルピアの資金協力を行っている。 ○ 2日前、3大学の学長と本邦研修のフォローアップ会合を持った。1週間の研修が、今後の10年を左右するほど大きな効果を持っている。Internal(先生が学校の中で練習し、教える力を改善すること)とExternal(学校の中で得たことを外部に発信すること)、2つの側面から授業研究は有効的である。今後はパイロット校での事業を強化しようと考えている。 ○ DGQITEPからのブロックグランとは、150県に対して2500万ルピアと30のLPMPに対する500万ルピアである。 ○ SISTTEMSでは、2007年度、各県4億5300万ルピア、各大学15億ルピア、授業研究に対しては3県50億ルピア、3大学15億ルピア供与している。高等教育総局は6月に財政の問題があり、代わりにsecretary(官房レベル)を通して大学へ資金協力を行っている。 ○ 教員の資格付与(certificate)を今年の8月にスタートさせる。10月までに20000人の教員を対象に、1月までに196000人を対象に行う。私立校の教員も含まれる。この動きに合わせて資格付与の条件に授業研究の研修を受けた経験などを盛り込む制度が期待される。インドネシアの資格付与制度の流れに合わせて授業研究の経験を教員のポートフォリオに入れることを提言してほしい。 ○ 資格が付与される教員は給与が2倍になる仕組み。資格付与の仕組みについては国民教育省が教員リストとから選抜し、県・市を通じて校長による審査による。独立して大学による資格付与の認定作業を行う。初年度は97の私立大学と33の公立大学を国民教育省から指定してアサインしている。今後は大学の資質により、国民教育省が大学の能力を見極めてセレクトする。 ○ 全国465県があり、5500(MGMP)×6(subject)に対してブロックグラントを供与している。ジャカルタなどでは市のMGMPからウィラヤのMGMPへ移行しつつある。MGMPの問題点は財政措置にあり、1) BOSが学校の教員の能力向上のために使われていないこと、2) KKKSのブロックグラントが校長や指導主事に対してあるにもかかわらず、うまく活用されていないことである。 ○ 毎年教員試験には120万人の応募があるが、合格するのはわずか6万4千人。それだけ教員の質が低いのが現状である。 <p style="text-align: right;">以上</p>

4. 対象校リスト

スメダン県

No	Wilayah	Nama Sekolah
1	A: Jatinagor	SMPS Plus Al Aqha Cikeruh
2		SMP Negeri 1 Jatinangor
3		SMPS PGRI 1 Cikeruh
4		SMP Negeri 2 Cimanggung
5		SMPS Al Masoem
6		SMPS Yudistira
7		SMP Negeri 1 Cimanggung
8		SMPS PGRI Parakanmuncang
9		SMP Negeri 3 Jatinangor
10		SMP Negeri 2 Jatinangor
11		SMPS Darul Fatwa
12		SMPS PGRI 2 Jatinagor
13		SMP S Plus Al' Amah
14		SMPS Plus Ganeas
15		Mts Ma'arif Cikeruh
16		SMPIT Imam Bukhori
17	B: Tanjungsari	MTs Ma'arif Tanjungsari
18		SMP Negeri 1 Tanjungsari
19		SMP Negeri 2 Tanjungsari
20		SMPS Pasundan Tanjungsari
21		SMP Negeri 1 Sukasari
22		MTS Sa'adah Sukasari
23		SMPSM.diyah Tanjungsari
24		SMP Negeri 1 Pamulihan
25		SMPS YKM Tanjungsari
26		SMP Negeri 3 Tanjungsari
27		SMPN Satu Atap Pamulihan
28		SMPN Kelas jauh Pamulihan
29		MTs Miftahusa'adah
30	C: South Sumedang	SMP Negeri 3 Sumedang
31		SMP Negeri 2 Sumedang
32		SMP Negeri 1 Sumedang
33		SMP Negeri 4 Sumedang
34		SMP Negeri 7 sumedang
35		SMP Negeri 10 Sumedang
36		SMP Negeri 3 Rancakalong
37		SMP Negeri 1 Rancakalong
38		SMPS 11 April Sumedang
39		SMP Negeri 2 Rancakalong
40	D: North Sumedang	SMP Negeri 1 Cisarua
41		MTs PERSIS
42		SMP Negeri 5 Sumedang
43		SMP Negeri 3 Cimalaka
44		SMP Negeri 6 Sumedang
45		SMP Negeri 1 Ganeas
46		SMP Negeri 9 Sumedang
47		SMP Negeri 2 Ganeas
48		SMP Negeri 8 Sumedang
49		SMPS NU Sumedang

No	Wilayah	Nama Sekolah
50	E: Paseh	SMP Negeri 1 Cimalaka
51		SMP Negeri 2 Buahdua
52		SMP Negeri 2 Paseh
53		SMP Negeri 2 Tanjungkerta
54		SMP Negeri 1 Tanjungmedar
55		SMP Negeri 2 Cimalaka
56		MTs Sumedang
57		SMP Negeri Surian
58		SMP Negeri 1 Tanjungkerta
59		SMP Negeri 1 Paseh
60		SMPS Al Ma"mun
61		SMPS NU Sukamantri
62	F: Tomo	SMP Negeri 3 Jatigede
63		SMP Negeri 1 Conggeang
64		SMP Negeri 2 Conggeang
65		SMP Negeri 1 Buahdua
66		MTs N Ujungjaya
67		SMP Negeri 2 Tomo
68		SMP Negeri 1 Ujungkaya
69		SMP Negeri 1 Jatigede
70		SMP Negeri 1 Tomo
71		SMP Negeri 1 Ujungjaya
72		SMPS Assalam Buahdua
73		MTs N Tomo
74	G: Situraja	SMP Negeri 1 Situraja
75		SMP Negeri 3 Situraja
76		SMP Negeri 1 Cisitu
77		SMP Negeri 3 Cisitu
78		SMP Negeri 4 Situraja
79		SMP Negeri 2 Situraja
80		SMP Negeri 2 Cisitu
81		MTs N Situraja
82	H: Darmaraja	SMP Negeri 1 Wado
83		MTs N Tarikolot
84		SMP Negeri 2 Jatinunggal
85		SMP Negeri 3 Wado
86		SMP Negeri 1 Darmaraja
87		SMP Negeri 1 Jatinunggal
88		SMP Negeri 2 Jatigede
89		SMP Negeri 2 Darmaraja
90		SMP Negeri 1 Cibugel
91		SMP Negeri 2 Wado
92		SMP Negeri Satu Atap Cibugel
93		SMP Negeri Satu Atap Cimungkal
94		SMP Negeri Satu Atap Cimanintin

パスルアン県

No		Nama Sekolah
1	KELOMPOK A.	SMPN 1 Purwosari
2	Purwosari dan	SMPN 2 Purwosari
3	Sukorejo	SMPN 1 Sukorejo
4		SMPN 2 Sukorejo
5		SMP Dewantoro Purwosari
6		SMP Islam Purwosari
7		SMP PGRI Purwosari
8		SMP Islam Sukorejo
9		SMP PGRI Sukorejo
10		SMP Persatuan Sukorejo
11		MTs. Darut Taqwa-2 Purwosari
12		MTs. Maarif Sukorejo
13	KELOMPOK B.	SMPN 1 Kejayan
14	Kecamatan : Keraton,	SMPN 1 Wonorejo
15	Pohjentrek, Kejayaan,	SMPN 2 Wonorejo
16	Wonorejo	SMPN 1 Pohjentrek
17		SMPN 1 Kraton
18		SMP Islam Bahrul Ulum
19		SMP Al Yasini Kraton
20		SMP Al Falah Kraton
21		SMP Sunan Bonang Kraton
22		MTsN Rejoso 2 Pohjentrek
23		MTsN Wonorejo
24		MTs Al-Yasini Wonorejo
25	KELOMPOK C.	SMPN 1 Tosari
26	Kecamatan: Tosari,	SMPN Puspo
27	Puspo, Pasrepan,	SMPN 1 Pasrepan
28	Gondang Wetan, dan	SMPN 2 Pasrepan
29	Winongan	SMPN 1 Gondang Wetan
30		SMPN 2 Gondang Wetan
31		SMPN 1 Winongan
32		SMPN 2 Winongan
33		SMP Islam Winongan
34		SMP Islam Almuawanah
35		SMPK Baithani Tosari
36		SMP Islam Yanuba Gondang
37		MTs. Hidayatun Nasyiin Pasrepan
38	KELOMPOK D.	SMPN 1 Nguling
39	Kecamatan: Nguling,	SMPN 2 Nguling
40	Grati, Lekok, Rejoso,	SMPN 3 Nguling
41	Lumbang	SMPN Lekok
42		SMPN 1 Grati
43		SMPN 2 Grati
44		SMPN 1 Lumbang
45		SMPN 2 Lumbang
46		SMPN 1 Rejoso
47		SMP Muhammadiyah 5 Lekok
48		SMP YPG Grati
49		SMP Darul Ulum 5 Rebalas
50		SMP Darul Ulum Sumurwaru
51		SMP N.U. Lekok
52		SMP Wachid Hasyim 2 Rejoso
53		MTsN 1 Rejoso
54		MTs. YTI. Nguling

No		Nama Sekolah
55	KELOMPOK E.	SMPN 1 Bangil
56	Kecamatan: Bangil dan	SMPN 2 Bangil
57	Rembang	SMPN 3 Bangil
58		SMPN 1 Rembang
59		SMPN 2 Rembang
60		SMP Nasional Bangil
61		SMP PGRI Bangil
62		SMP Putri Darut Tauhid Bangil
63		SMP RDU Bangil
64		SMP Ahmad Yani Bangil
65		SMP Muhammadiyah 2 Bangil
66		MTsN Bangil
67		SMP Roudlotul Al-Qoidi Bangil
68		MTs. Maarif Bangil
69		MTs. Maarif Rembang
70	KELOMPOK F.	SMPN 1 Gempol
71	Kecamatan: Gempol	SMPN 2 Gempol
72	dan Beji	SMPN 1 Beji
73		SMPN 2 Beji
74		SMP PGRI Gempol
75		SMP Yapenas Gempol
76		SMP Muhammadiyah 4 Gempol
77		SMP Al Hidayah Gempol
78		SMP Ma'arif Walisongo Gempol
79		SMP PGRI Beji
80		SMP Hasan Munadi Beji
81		SMP Almahadul Islami Beji
82		SMP Islam Yaspai Beji
83		SMP Islam Miftahul Huda Beji
84		SMP Dzun Nurain Beji
85		MTs. Hasan Munadi Beji
86	KELOMPOK G.	SMPN 1 Pandaan
87	Kecamatan: Pandaan	SMPN 2 Pandaan
88	dan Prigen	SMPN 1 Prigen
89		SMPN 2 Prigen
90		SMP Bina Karya Pandaan
91		SMP Ma'arif NU Pandaan
92		SMPK Panthi Parama Pandaan
93		SMP Yayasan Pandaan
94		SMP PGRI Pandaan
95		SMP Muhammadiyah 3 Pandaan
96		SMP Ma'arif Prigen
97		SMP Taman Dewasa Prigen
98		SMP PGRI 1 Prigen
99		SMP PGRI 3 Prigen
100		SMP Sejahtera Prigen
101		SMP Al Asari Al Khozini Prigen
102		SMP Al Azhar Prigen
103		MTsN Prigen
104		MTsN Pandaan
105		MTs. Sunan Giri Prigen
106	KELOMPOK H.	SMPN 1 Purwodadi
107	Kecamatan: Purwodadi	SMPN 2 Purwodadi
108	dan Tutar	SMPN 1 Tutar
109		SMPN 2 Tutar
110		SMP 45 Gerbo Purwodadi
111		SMP Advent Purwodadi
112		SMP Tri Dharma Purwodadi
113		SMP Tiogomulyo Tutar
114		SMP Islam Yakini Tutar
115		SMP Islam PGRI Tutar
116		SMPK Baithani Tutar
117		MTs. Al-Hidayah Purwodadi

バントウル県

No	Kecamatan	Nama Sekolah
1	Homebase 1	SMP N 1 Bantul
2	Bantul	SMP N 2 Bantul
3		SMP N 3 Bantul
4		SMP N 4 Bantul
5		SMP Muh Bantul
6		SMP BOPKRI Bantul
7		SMP Putratama Bantul
8		SMP Patria Bantul
9		SMP Nasional Bantul
10		SMP Al Ma'arif Bantul
11		SMP YP Bantul
12		MTs N Bantul Kota
13		MTs Muh Pepe Bantul
14	Homebase 2	SMP N 1 Sewon
15	Sewon, Pleret	SMP N 2 Sewon
16		SMP N 3 Sewon
17		SMP N 4 Sewon
18		SMP Muh Sewon
19		MTs N Gondowulung
20		MTs Ali Maksum Sewon
21		MTs Al Ma'had An Nur Sewon
22		SMP N 1 Pleret
23		SMP N 2 Pleret
24		SMP N 3 Pleret
25		SMP Muh Pleret
26		MTs Wonokromo Pleret
27		MTs Al Mahali Pleret
28	Homebase 3	SMP N 1 Kasihan
29	Kasihan, Sedayu,	SMP N 2 Kasihan
30	Pajangan	SMP N 3 Kasihan
31		SMP Muh Kasihan
32		SMP Mataram Kasihan
33		SMP PGRI Kasihan
34		SMP St. Fr. Xaverius Kasihan
35		SMP St. Bellarminus Kasihan
36		SMP N 1 Sedayu
37		SMP N 2 Sedayu
38		SMP Pangudiluhur Sedayu
39		SMP N 1 Pajangan
40		SMP N 2 Pajangan
41		SMP N 3 Pajangan
42	Homebase 4	SMP N 1 Pandak
43	Pandak, Srandakan,	SMP N 2 Pandak
44	Sanden	SMP N 3 Pandak
45		SMP N 4 Pandak
46		SMP YP 17 I Pandak
47		SMP N 1 Srandakan
48		SMP N 2 Srandakan
49		SMP Muh Srandakan
50		SMP N 1 Sanden
51		SMP N 2 Sanden
52		SMP Muh Sanden
53		SMP Yay. Pen. Sanden

No	Kecamatan	Nama Sekolah
54	Homebase 5	SMP N 1 Kretek
55	Kretek, Pundong	SMP N 2 Kretek
56		SMP Muh Kretek
57		SMP N 1 Pundong
58		SMP N 2 Pundong
59		SMP Muh 1 Pundong
60		MTs N Pundong
61	Homebase 6	SMP N 1 Bambanglipuro
62	Bambanglipuro, Jetis	SMP N 2 Bambanglipuro
63		SMP Muh 1 Bambanglipuro
64		SMP Muh 2 Bambanglipuro
65		SMP Kanisius Bb.lipuro
66		SMP Darma Bakti Bb.lipuro
67		SMP N 1 Jetis
68		SMP N 2 Jetis
69		SMP N 3 Jetis
70		SMP Muh Jetis
71		MTs N Sumberagung Jetis
72	Homebase 7	SMP N 1 Piyungan
73	Piyungan, Banguntapan	SMP N 2 Piyungan
74		SMP Pembangunan Piyungan
75		SMP Muh Piyungan
76		MTs N Piyungan
77		SMP N 1 Banguntapan
78		SMP N 2 Banguntapan
79		SMP N 3 Banguntapan
80		SMP N 4 Banguntapan
81		SMP N 5 Banguntapan
82		SMP Binajaya
83		SMP Muh Banguntapan
84		MTs Mahad Islamy Banguntapan
85	Homebase 8	SMP N 1 Dlingo
86	Dlingo, Imogiri	SMP N 2 Dlingo
87		SMP PGRI Dlingo
88		SMP TD 1 Dlingo
89		SMP TD 2 Dlingo
90		SMP Muh 1 Dlingo
91		SMP Muh 2 Dlingo
92		MTs N Dlingo
93		SMP N 1 Imogiri
94		SMP N 2 Imogiri
95		SMP N 3 Imogiri
96		SMP Muh Imogiri
97		SMP TD Imogiri
98		SMP Ma'arif Imogiri
99		MTs N Giriloyo Imogiri

The Guideline for Entire School Lesson Study

1. Introduction

1.1. Background

SISTTEMS is a project for mathematics and science education: thus the most of the activities are geared to professional development of mathematics and science teachers through lesson study (LS) in MGMP at wilayah level. However, activities only focusing on mathematics and science teachers would have limitation.

This is because only change in lessons at entire school level can lead to deep change in student learning, resulting in improvement of academic achievement. Then, a serious concern would also exist that strong attention only to mathematics and science teachers would lead to negative sentiment among teachers in remaining subjects. This type of emotional troubles would rather affect reform of lessons by mathematics and science teachers.

Therefore, under framework of SISTTEMS, target will be set to entire school to include every single teacher there, on pilot basis (entire school lesson study: ESLS). The purpose of this paper is to clarify framework and content of the activities.

1.2. Objectives

The purpose of this activity is to promote school reform in order to create 'learning community' there. This reform is based on lesson study, a forum to enhance professional expertise and pedagogical capacity, including care about children, possessed by teachers. Concrete objectives are listed as below;

- (1) Promoting collaborative learning all over subjects;
- (2) Developing professional capacities of teachers at entire school level, and
- (3) Involving parents and local people in supporting educational activities.

In the project period of SISTTEMS, activities in relation to (1) and (2) should be mainly targeted.

Furthermore, another purpose of this activity is to enhance capacity of university faculty members and local educational administrators in terms of support provision towards school reform, through accumulating experiences in pilot schools.

1.3. Goals

In order to achieve objectives as listed in 1.2., the concrete goals will be as shown below;

- (1) All teachers in a pilot school should open their lesson for observation and reflection, *at least once a year*;
- (2) All teachers should try to construct collegiality through learning and collaborating together;
- (3) All teachers should reform lessons, by introducing:
 - Concrete teaching aids or materials, including documents, with an interface with social or natural reality;
 - Activities by small groups, consisting of 3 to 4 members, and
 - Mutual sharing of expressions and representations.

2. Framework of Activities

2.1. Piloting Schools As Targets

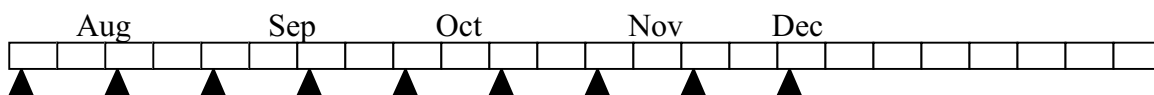
There will be two piloting schools as targets of ESLS in each district. However, these piloting schools should be separated from home base schools for MGMP wilayah, in consideration of workload. Selection of those piloting schools will be based on quality of proposals, and results of interviews if necessary, and all the DINAS, university and JICA expert team will jointly decide schools. Additionally, JICA will not bear costs in piloting schools.

2.2. Steps of Lesson Study

- Plan: developing lesson plan collaboratively by MGMP-Sekolah (MGMPs)
- Do : observation by (1) all teachers, (2) grade group and MGMPs, or (3) those who can observe

See : (1) all teacher or (2) grade group and MGMPs

2.3. Detail of Schedule



At the beginning stage, lesson study will be conducted at the entire school level in observation and reflection. In conducting this, the schedule of ESLS should be different and separated from that of MGMP Wilayah. Yet, as described later in detail, if there is LS for MGMP wilayah at a piloting school, it is possible to hold ESLS in combined manner.

2.4. The Order of Opening Lessons

- 1st time: Explanation on Strategies and Building Consensus
- 2nd time: Explanation on Strategies and Building Consensus
- 3rd time (and further): Opening Lessons

3. Framework for Implementation

3.1. Developing Resource Persons in Universities

As described in 1.2, this ESLS covers human resource development at university level to support schools. This section will deal with issues in relation to university human resource.

(1) Basic Principles

The number of involved faculty members in this activity should be small, but the group should be very strong one. In each university, two to three faculty members should be assigned for one school, so the total number in each university should be 4 to 6.

In addition, although selection of these members should depend on decision in each university, their priority of work should be placed on ESLS, rather than MGMP. However, the faculty members will attend only in observation and reflection, while

school teachers will be fully responsible for planning lesson.

Moreover, technical inputs provided by Japanese Experts, particularly Mr. Sato and Prof. Nishitani, as well as Saito will be focused on the faculty members who are engaged in this ESLS.

(2) Selection of Members

Basically, key members will be faculty members with experiences of counterpart training in Japan, particularly after 2005. Further, faculty members whom management level people would consider as appropriate will be included. **Members in this activity are required to have deep insight on lesson study, particularly at entire school level, and humbleness and flexibility to learn from teachers in schools. Then, they must have certain willingness to learn deeply and to guide teachers about collaborative learning, not cooperative learning, and relationships based on care.**

3.2. Organisational Reform in Piloting School

(1) Principles

ESLS is an activity to involve whole teachers in school, so a strong need exists for managers and teachers in piloting school to actively take their own initiatives for reform. Therefore, establishment of implementation system for ESLS and consideration for working hours of teachers are strongly needed, as described below.

(2) Establishing Implementation System for ESLS

(a) Organising Management System inside Piloting Schools

The system of managerial operation needs to be established as shown below.

Principal



Management Board:

- consisting of vice principals, head of training, head of curriculum coordinator, student guidance coordinator
- managing annual plan of open lessons and chairing discussion in reflection

↓

Training Section :

- consisting of coordinators of each subject/MGMPS
- developing consensus about ‘collaborative learning’ in school, such as through joint discussion on lesson plan

(b) Consideration for working hours of teachers

As explained in ‘2.’, at the beginning stage, all teachers will participate in observation and reflection. Therefore, it is necessary to regard working hours of teachers, in consideration of part-time job or other assignments outside school by teachers.

Moreover, it is necessary to carefully design and organise teaching hours, in accordance with implementation of lesson observation and reflection. Candidate schools for ESLs should propose their own ideas on these matters.

4. Conducting Lesson Study

4.1. Explaining to Teachers about What to Change in Their Teaching

As mentioned earlier, the first two weeks of ESLs will be spent for explanation on principles of this activity. At that time, an explanation will be given on necessity to change lesson from conventional one to collaborative one. To be more concrete, a detailed explanation will be given regarding three disciplines as shown in ‘1.3.’

4.2. Lesson Plan and Worksheet

In both IMSTEP and SISTTEMS, group activities have been emphasised, with special reference to use of worksheet, based on cooperative learning approach. However, such worksheets tend to become ‘paths’ to guide students to do activities, in accordance with teachers’ predetermined ideas. To be more concrete, worksheets are likely to let students fill blanks as results of several activities. However, in reality, some ‘smart’ students dominantly would deal with questions and rest of students just watch how smart ones efficiently finishes activities. Moreover, students are likely not to deepen their thoughts, but compete with each other in order to answer more quickly and more correctly; then learning from other friends or deeply reflecting ideas would be out of

their scopes.

Therefore, it is increasingly necessary to revise and refine this type of mindsets on worksheets to make them more collaborative: to stimulate student ‘notices’ and ‘findings’. The problem is not an introduction of worksheet: rather, type of questions should be re-examined and reformed as more collaborative. To be concrete, important points are:

- The number of questions should be around 2 or 3;
- Introductory questions should stimulate students to notice something important from materials, such as by asking ‘what do you notice or find?’
- A need exists to abolish questions for students to fill blanks as outputs of group activities, and
- There should be at least one question or task to target higher level learning.

In this activity, university faculty members will conduct technical introduction on how to plan more exploratory lessons: this should be done also in reflection, based on realities in lessons. Moreover, teachers discuss planning lessons in MGMPS.

4.3. Perspectives in Observing Lessons

Important perspectives and viewpoints will be listed as below;

- Quiet children
 - Which children keep quiet and speechless
 - Why do they not utter?
 - What kinds of action should be made to invite them into learning?
- Facial expressions and body expressions
 - In what situation, which child has shown facial and body expression of ‘understanding’?
 - In what situation, which child has shown facial and body expression of ‘not understanding’?
- Action and consideration towards children with lower achievement or concentration
 - At what stage have they stopped learning?

Is it because of difficulty in understanding content or another reasons?

- What kinds of actions are necessary to invite them into learning again?
- Group: Verbal Communication
 - What kinds of discourse have children had in group activities?
 - What sorts of discourse have children had in whole-class discussion?
- The level of Tasks
 - Whether has the level of the tasks given in lesson been sufficient or not?
- Unnecessary Parts of the Lesson
 - What is unnecessary part in the observed process of the lesson?
- Relationship among material, concept, and human being
 - How has the relationship been between material and children?
 - How has the relationship been between concepts and children?
 - How has the relationship been with children themselves in the past or friends?
- Care: from monologue to dialogue
 - Could students ask to friends, saying ‘I do not understand this’?
 - What kinds of interaction has taken place among children?
 - What kinds of action has the teacher made for children with difficulty or failure to understand?

5. Schedule

Month	University	School	DINAS	JICA
April		Preparation		
May	Selection	Submission of Proposals	Selection	Selection
June	Decision of Faculty Members			
July	CP Training	CP Training	CP Training	CP Training
August	Explanation on Principles	Explanation on Principles	Explanation on Principles	Explanation on Principles
September	Open Lesson (Ramadan)	Open Lesson (Ramadan)	Open Lesson (Ramadan)	Open Lesson (Ramadan)
October	Open Lesson (Lebaran)	Open Lesson (Lebaran)	Open Lesson (Lebaran)	Open Lesson (Lebaran)
November	Open Lesson	Open Lesson	Open Lesson	Open Lesson
December	Open Lesson	Open Lesson	Open Lesson	Open Lesson

6. Evaluation (Tentative Idea)

In piloting schools, there should be independent tests, such as pre- and post-tests in the beginning and the end of academic year respectively, and questionnaire survey to compare their changes. Then, they can obtain technical support and assistance by university faculty members and JICA Experts, but they should accommodate financial budget by themselves. It should be separated activity from a series of surveys in SISTTEMS.

7. Differentiation between ESLS and MGMP

In SISTTEMS, LS in MGMP at wilayah has been conducted so far since last year. In order to avoid confusion and duplication, there will be an explanation on differentiation between two activities in this section.

(1) Cost

MONE has been in charge of MGMP activities in terms of financial cost. Then, regarding ESLS, except cost to invite faculty members, school side should bear all the costs.

(2) Position of Piloting School in MGMP Wilayah

Piloting school should be different from home base school in MGMP wilayah, in consideration of workload. If piloting school has been chosen as home base school, another school should be assigned as home base school.

(3) Teachers

Mathematics and science teachers of piloting schools have also already participated in MGMP wilayah. Then, their roles in ESLS would be to take initiative to open their lessons for observation and reflection in piloting schools. Moreover, they would be expected to become role models in developing collaborative learning in piloting schools.

On the other hand, they will keep continuous participation in MGMP wilayah. However, once ESLS starts, there would probably be a great workload for mathematics

and science teachers. Thus, in spite of valuing opinions and willingness of teachers and school side, a need exists to permit participation by representatives from piloting schools.

(4) Schedule

As a principle, ESLS and MGMP wilayah should be conducted on separated days, in order to avoid duplication of schedule. Yet, if a mathematics and science teacher of piloting school would open lesson for observation and s/he is in charge of opening lesson in MGMP wilayah on that day, both of them can be jointly conducted at same time. However, in such a situation, MONE should be in charge of MGMP teachers, while school side should be in charge of teachers from piloting schools, in terms of cost sharing.

(End of Paper)